# 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

１９９７年度

１９９８年3月

柏原市教育委員会

# はしがき

殺伐としたできごとの多かった一年が終わり、新たな年がスタートをきりました。柏原市にとっては、十分な準備のもとに行われた“なみはや国体”が成功のうちに終わり、市教育委員会も平静さを取り戻し、新年度を迎えようとしています。

埋蔵文化財の発掘調査は、このような動きと関係なく、この一年も例年どおりに実施され、多くの成果をあげることができました。市教育委員会では、日々埋蔵文化財と取り組んでいるのですが、その中で破壊されていく文化財を少しでも保存し、破壊のやむなきに至る場合は少しでも多くの事実を記録しておくこと、そしてこれらを後世に残していくことが最も大切なことと考えています。まだまだ十分とはいえないかもしれませんが、これからも、埋蔵文化財の調査と保存に努めてまいりたいと考えております。

市民のみなさまも埋蔵文化財の調査と保存にご理解をいただき、今後ともご協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成10年３月

柏原市教育委員会
教育長　舟橋　清光

# 例　　言

1、本書は、柏原市教育委員会が平成９年度に国庫補助事業（総額1,600,000円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2、調査は、柏原市教育委員会社会教育課　北野　重、安村俊史を担当者とし、平成９年４月１日に着手し、平成10年３月31日に終了した。

3、本書には、平成９年１月１日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち10件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条－２および３に基づく届出・通知がなされたものは362件、その中で発掘調査を実施したものは52件、国庫補助事業として実施したものは28件である。

4、本書の編集・執筆は安村が担当し、遺物の項は槇原美智子が担当した。

5、調査整理の参加者は下記のとおりである。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 橘谷　和夫 | 竹下　　賢 | 柳谷　好子 | 長西　茂樹 | 北野　　重 | 石田　成年 |
| 寺川　　款 | 奥野　　清 | 谷口　鉄次 | 分才　隆司 | 浅野　正子 | 今西　芳文 |
| 尾野　絹江 | 谷川　洋史 | 冨田　郁子 | 阪口　文子 | 槇原美智子 | 藤川富久子 |
| 有江マスミ | 乃一　敏恵 | 橋口　紀子 | 松本　和子 | 村口ゆき子 | |

# 目　　次

1997年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧
第１章　山ノ井遺跡 …… 1
97－１次調査 …… 2
第２章　平野遺跡 …… 4
97－２次調査 …… 5
第３章　大県南廃寺 …… 6
97－２次調査 …… 7
第４章　平尾山古墳群 …… 10
97－２次調査 …… 11
第５章　高井田横穴群 …… 12
97－１次調査 …… 13
第６章　玉手山遺跡 …… 14
97－４次調査 …… 15
第７章　原山遺跡 …… 16
97－２次調査 …… 17
第８章　田辺遺跡 …… 19
97－７次調査 …… 20
第９章　田辺廃寺 …… 22
97－１次調査 …… 23
第10章　松岳山古墳群 …… 25
97－１次調査 …… 26

# 挿　図　目　次


図－1　山ノ井遺跡　調査対象地位置図 …… 1
図－2　山ノ井遺跡97－1次調査　調査区位置図 …… 2
図－3　山ノ井遺跡97－1次調査　南壁土層図 …… 3
図－4　山ノ井遺跡97－1次調査　出土遺物 …… 3
図－5　平野遺跡・大県遺跡　調査対象地位置図 …… 4
図－6　平野遺跡97－2次調査　土層模式図 …… 5
図－7　平野遺跡97－2次調査　調査区位置図 …… 5
図－8　大県南遺跡・太平寺遺跡・大県南廃寺　調査対象地位置図 …… 6
図－9　大県南廃寺97－2次調査　調査区位置図 …… 7
図－10　大県南廃寺97－2次調査　土層図 …… 8
図－11　大県南廃寺97－2次調査　出土遺物 …… 9
図－12　平尾山古墳群　調査対象地位置図 …… 10
図－13　平尾山古墳群97－2次調査　西壁土層図 …… 11
図－14　平尾山古墳群97－2次調査　調査区位置図 …… 11
図－15　安堂遺跡・高井田横穴群　調査対象地位置図 …… 12
図－16　高井田横穴群97－1次調査　調査区位置図 …… 13
図－17　玉手山遺跡・片山廃寺　調査対象地位置図 …… 14
図－18　玉手山遺跡97－4次調査　北壁土層図 …… 15
図－19　玉手山遺跡97－4次調査　調査区位置図 …… 15
図－20　原山遺跡　調査対象地位置図 …… 16
図－21　原山遺跡97－2次調査　調査区位置図 …… 17
図－22　原山遺跡97－2次調査　土層図・平面図 …… 18
図－23　田辺遺跡　調査対象地位置図 …… 19
図－24　田辺遺跡97－7次調査　調査区位置図 …… 20
図－25　田辺遺跡97－7次調査　平面図・土層図 …… 21
図－26　田辺遺跡・田辺廃寺・奥山遺跡　調査対象地位置図 …… 22
図－27　田辺廃寺97－1次調査　調査区位置図 …… 23
図－28　田辺廃寺97－1次調査　第1トレンチ土層図 …… 24
図－29　田辺廃寺97－1次調査　出土遺物 …… 24
図－30　田辺廃寺97－1次調査　第2トレンチ平面図 …… 24
図－31　松岳山古墳群　調査対象地位置図 …… 25
図－32　松岳山古墳群97－1次調査　調査区位置図 …… 26

図－33　松岳山古墳群97－１次調査　土層図 …… 26
図－34　松岳山古墳群97－１次調査　出土遺物 …… 26
図－35　船橋遺跡　調査対象地位置図 …… 27

# 図　版　目　次

図版１　山ノ井遺跡97－１次調査
図版２　平野遺跡97－２次調査
図版３　大県南廃寺97－２次調査
図版４　大県南廃寺97－２次調査
図版５　平尾山古墳群97－２次調査
図版６　高井田横穴群97－１次調査
図版７　玉手山遺跡97－４次調査
図版８　原山遺跡97－２次調査
図版９　原山遺跡97－２次調査
図版10　田辺遺跡97－７次調査
図版11　田辺遺跡97－７次調査
図版12　田辺廃寺97－１次調査
図版13　田辺廃寺97－１次調査
図版14　松岳山古墳群97－１次調査

# 1997年度　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

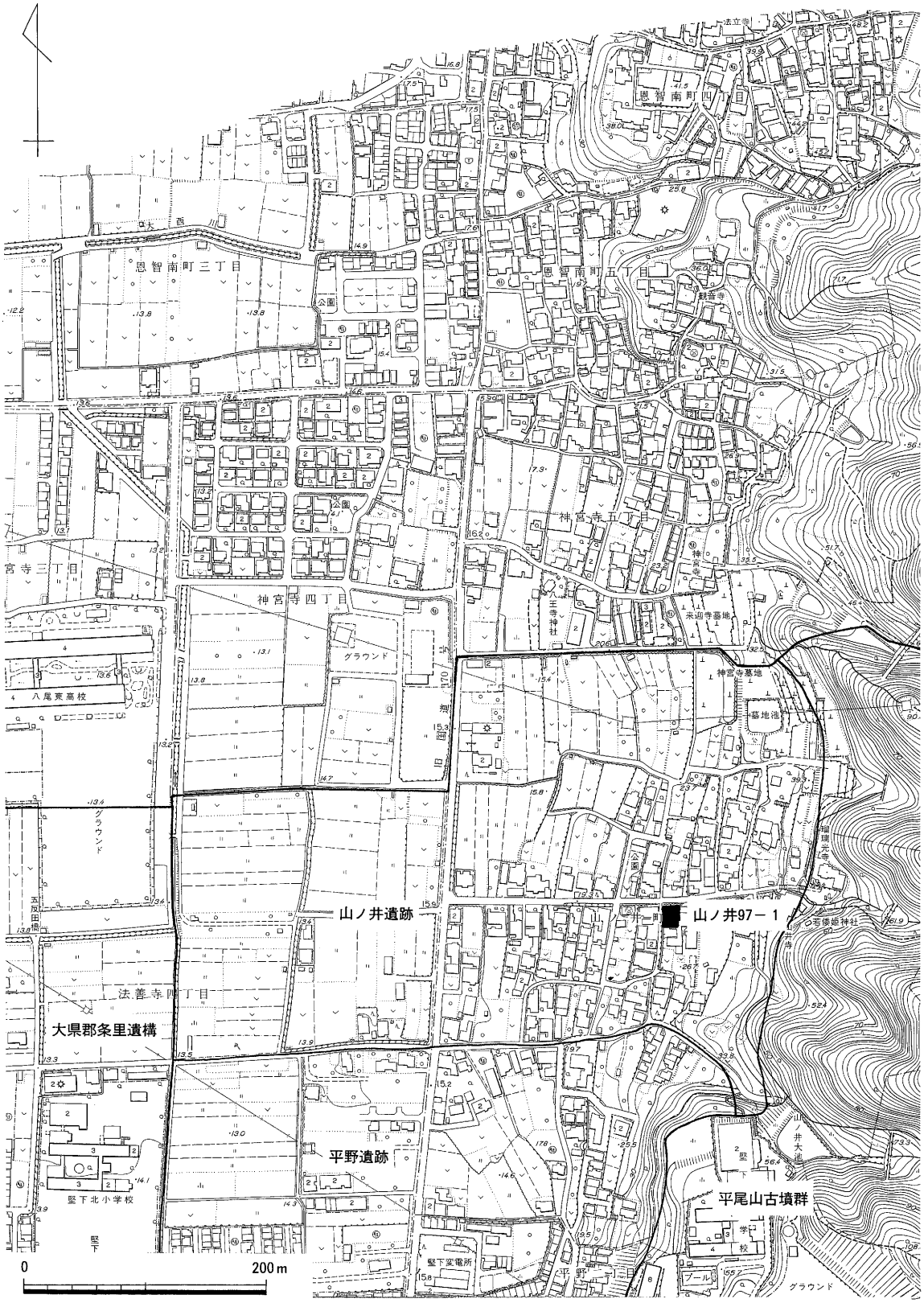
| 遺跡名 | 所在地 | 面積㎡ | 申請者 | 用途 | 担当 | 調査期日 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 船橋97－1 | 古町1丁目520－3 | 483.72 | アズマホーム㈱<br>代表　平別府一郎 | 分譲住宅建設 | 安村 | 10.7 | 1.4×2.3×1.8mを調査。土坑・少量の土師器出土。 |
| 船橋97－2 | 大正3丁目400－7 | 937.38 | ㈱大清建設<br>代表　辻内　清 | 店舗・事務所建設 | 安村 | 11.4 | 2×2×3mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 山ノ井97－1 | 山ノ井町730の一部 | 472.03 | 早川裕久 | 個人住宅建設 | 安村 | 10.13 | 1.5×1.5×0.8mを調査。本書P.2掲載。 |
| 平野97－1 | 法善寺4丁目346－5 | 88.91 | 石山哲郎 | 個人住宅建設 | 安村 | 3.7 | 1.5×2×1.7mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 平野97－2 | 平野2丁目485 | 268.72 | 田中好夫 | 個人住宅建設 | 安村 | 6.26 | 1.5×1.5×0.8mを調査。本書P.5掲載。 |
| 平野97－3 | 平野2丁目475－1、481 | 1,372.81 | ㈲アルファ住宅<br>取締役　谷上順子 | 宅地造成 | 安村 | 7.25 | 2×2×2mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 大県97－1 | 大県3丁目157－4 | 838.73 | 山下住建㈱<br>代表　山下武次 | 宅地造成 | 安村 | 2.6 | 1×2×1.6mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 大県97－2 | 平野2丁目317、318、319 | 460.76 | 宗教法人　遠慶寺<br>代表　大橋恵照 | 寺院建設 | 安村 | 2.19 | 2×3×3.8mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 大県97－3 | 大県4丁目165－2 | 475.80 | 北口雅裕 | 個人住宅建設 | 安村 | 2.21 | 1.5×2×0.8mを調査。少量の須恵器・土師器が出土。 |
| 大県97－4 | 平野2丁目1番地先 | 12,111 | 柏原市長　山西敏一 | 耐震性貯水槽設置 | 北野 | 7.22 | 1×1×0.4mを2箇所調査。遺構・遺物なし。 |
| 大県97－5 | 平野2丁目171－1の一部 | 300.32 | 上田芳弘 | 共同住宅建設 | 安村 | 10.14 | 1.5×2×1.4mを調査。古墳～奈良時代の遺物出土。 |
| 大県南97－1 | 太平寺2丁目554－1他5筆 | 1,212.95 | 阪南土地開発㈱<br>代表　阪口宗巳 | 宅地造成 | 安村 | 10.28 | 2×3×2.3mを調査。古墳～飛鳥時代の遺物出土。 |
| 太平寺97－1 | 太平寺2丁目252－4、254－4 | 81.57 | 上田　博 | 個人住宅建設 | 安村 | 2.7 | 1.5×1.5×0.2mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 太平寺97－2 | 太平寺2丁目253－2 | 78.77 | 玉木　功 | 個人住宅建設 | 安村 | 2.7 | 0.5×1×0.6mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 太平寺97－3 | 太平寺2丁目234－1の一部 | 75.37 | 奥野みえ子 | 個人住宅建設 | 安村 | 2.7 | 0.5×1.2×0.5mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 太平寺97－4 | 太平寺2丁目234－1の一部、234－3、236－1の一部 | 69.52 | 奥野義造 | 個人住宅建設 | 安村 | 2.7 | 1.8×3×0.1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 太平寺97－5 | 太平寺2丁目237、238、240の一部 | 431.82 | 馬場安子 | 分譲住宅建設 | 安村 | 4.1 | 1×2×1.6mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 太平寺97－6 | 太平寺2丁目574－1、575 | 960.47 | 田仲ナミ子 | 共同住宅建設 | 安村 | 6.23 | 1×2×2.8mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 安堂97－1 | 安堂町918－1 | 468.41 | 阪和住研㈱<br>代表　北口八郎 | 宅地造成 | 石田 | 2.19 | 1.2×1.2×1.2mを2箇所調査。古墳～奈良時代の遺物出土。 |
| 安堂97－2 | 安堂町218－1他4筆 | 1,040.23 | 安尾三治 | 共同住宅建設 | 石田 | 10.23 | 3箇所、計7.5㎡を調査。遺構・遺物なし。 |
| 大県南廃寺97－1 | 大県4丁目608－1、885 | 1,414.17 | 安井秀男 | 共同住宅建設 | 安村 | 3.5 | 3×3×3.5mを2箇所調査。遺構・遺物なし。 |

| 遺　跡　名 | 所　在　地 | 面積㎡ | 申　請　者 | 用　途 | 担当 | 調査期日 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大県南廃寺97－2 | 大県4丁目489－1の一部、490－1の一部 | 495.41 | 北辻正志 | 個人住宅宅地造成 | 安村 | 3.17～3.25 | 2箇所、計11.7㎡を調査。本書P7掲載。 |
| 大県南廃寺97－3 | 大県4丁目384 | 3,120.61 | 柏原市長　山西敏一 | 健康福祉センター建設 | 北野 | 8.6～11.7 | 1,500㎡を調査。縄文～近世の遺構・遺物。 |
| 平尾山古墳群97－1 | 雁多尾畑453－12 | 743.96 | 近畿地方建設局<br>大和川工事事務所長<br>森山裕二 | 無線中継所局舎建設 | 石田 | 1.28 | 1×7×0.4mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 平尾山古墳群97－2 | 太平寺788、789、792、793 | 616.99 | 槌野　稔 | 個人住宅・倉庫建設 | 安村 | 5.1 | 1.5×2×1.3mを調査。本書P.11掲載。 |
| 高井田横穴群97－1 | 高井田617－6 | 283.57 | 上田芳弘 | 個人住宅建設 | 安村 | 9.16 | 1.5×2×1.1mを調査。本書P.13掲載。 |
| 玉手山97－1 | 旭ケ丘2丁目294－49 | 139.06 | 渡　正文 | 個人住宅建設 | 安村 | 2.26 | 1.5×1.5×0.4mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 玉手山97－2 | 旭ケ丘1丁目577－21 | 102.57 | 西嶋秀男 | 個人住宅建設 | 安村 | 5.7 | 1.5×2×1.1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 玉手山97－3 | 玉手町39他4筆<br>円明町48－4の一部 | 982.06 | 山田住宅㈱<br>代表　山田正太郎 | 分譲住宅建設 | 石田 | 5.21 | 1.5×2×1.5mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 玉手山97－4 | 玉手町145、56 | 96.15 | 谷尾健一、谷尾　茂 | 個人住宅建設 | 安村 | 8.25 | 1.5×1.5×0.6mを調査。本書P.15掲載。 |
| 玉手山97－5 | 旭ケ丘1丁目541、542 | 498.37 | 奥山光彦 | 個人住宅建設 | 安村 | 10.7 | 2.5×10×1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 玉手山97－6 | 旭ケ丘1丁目390－14 | 376.06 | 北村保雄 | 個人住宅建設 | 安村 | 11.14 | 1.5×1.5×1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 片山廃寺97－1 | 片山町166－2 | 176.45 | 松下義則 | 個人住宅建設 | 北野 | 5.20 | 1×2×0.5mを調査。奈良時代の遺物が出土。 |
| 原山97－1 | 旭ケ丘3丁目4874－3 | 202.20 | 加藤四郎 | 共同住宅建設 | 石田 | 5.2 | 1×2×1.7mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 原山97－2 | 旭ケ丘3丁目4793－12 | 74.7 | 宮崎　滋 | 個人住宅建設 | 安村 | 8.26 | 2箇所、計11.3㎡を調査。本書P.17掲載。 |
| 奥山97－1 | 旭ケ丘4丁目4985－1他13筆 | 43,200 | 日本道路公団大阪管理局<br>南大阪管理事務所<br>所長　住田　宏 | 西名阪自動車道<br>柏原本線料金所新設 | 石田 | 1.27～9.19 | 2箇所、計5,000㎡を調査。弥生時代の石器製作遺構。 |
| 田辺97－1 | 田辺2丁目2004－3、2008－6 | 310.47 | 平川住宅㈱<br>代表　平川年一 | 宅地造成 | 安村 | 2.19 | 2×14×1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－2 | 国分本町7丁目2235－2、2235－3 | 247.76 | 日下志勤、日下志欽子 | 共同住宅建設 | 安村 | 2.20 | 1.5×1.5mを2箇所調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－3 | 田辺2丁目2080－10 | 104.20 | 川原英樹 | 個人住宅建設 | 安村 | 4.14 | 1.5×1.5×0.3mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－4 | 田辺2丁目2086－4、2086－20 | 126.40 | 今浦義久、今浦妙子 | 個人住宅建設 | 安村 | 4.15 | 1×2.2×0.6mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－5 | 田辺2丁目2080－54 | 102.53 | 寺田武彦 | 個人住宅建設 | 安村 | 4.24 | 1.5×1.5×0.4mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－6 | 田辺2丁目1237－1、1237－2、1238－1 | 952.36 | 八幸産業㈱<br>代表　東部正己 | 宅地造成 | 北野 | 5.30 | 1.5×3×0.2mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－7 | 国分本町7丁目1936－1 | 74.58 | 神丸　豊 | 個人住宅建設 | 安村 | 8.11 | 1.5×1.5×0.5mを調査。本書P.20掲載。 |

| 遺跡名 | 所在地 | 面積㎡ | 申請者 | 用途 | 担当 | 調査期日 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 田辺97－8 | 国分本町6丁目706 | 163.02 | 豆本義信 | 個人住宅建設 | 安村 | 9.4 | 1.5×1.5×0.3mを調査。遺構・遺物なし・ |
| 田辺97－9 | 国分本町7丁目1368－8他4筆 | 496.74 | 乾　茂 | 共同住宅建設 | 安村 | 9.5 | 3×3×3mを調査。遺構・遺物なし・ |
| 田辺97－10 | 田辺2丁目2086－13 | 76.98 | 山口禮三郎 | 個人住宅建設 | 安村 | 9.17 | 1.5×1.5×1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－11 | 国分本町6丁目685 | 181.32 | 長瀬邦男 | 個人住宅建設 | 安村 | 10.7 | 1.3×2.5×0.3mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－12 | 田辺1丁目977－1、977－2、978の一部 | 283.97 | 木村哲夫 | 個人住宅建設 | 安村 | 11.10 | 1.5×1.5×1.2mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－13 | 国分本町6丁目763－4 | 128.33 | 村西玉江 | 共同住宅建設 | 石田 | 12.3 | 1×2×1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺97－14 | 国分本町5丁目1497 | 296.80 | 谷野収治 | 個人住宅建設 | 安村 | 12.16 | 1.5×1.5×1mを調査。遺構・遺物なし。 |
| 田辺廃寺97－1 | 田辺1丁目2043甲・乙、2044の一部 | 270.60 | 浅田　充 | 個人住宅建設 | 安村 | 7.16～7.18 | 2箇所、計9㎡を調査。本書P.23掲載。 |
| 松岳山古墳群97－1 | 国分市場1丁目1630の一部 | 154.87 | 裏野元二 | 個人住宅建設 | 安村 | 7.30 | 1.5×1.5×0.9mを調査。本書P.26掲載。 |

（但し1997年1月1日から12月31日に実施した調査）

# 第１章　山ノ井遺跡

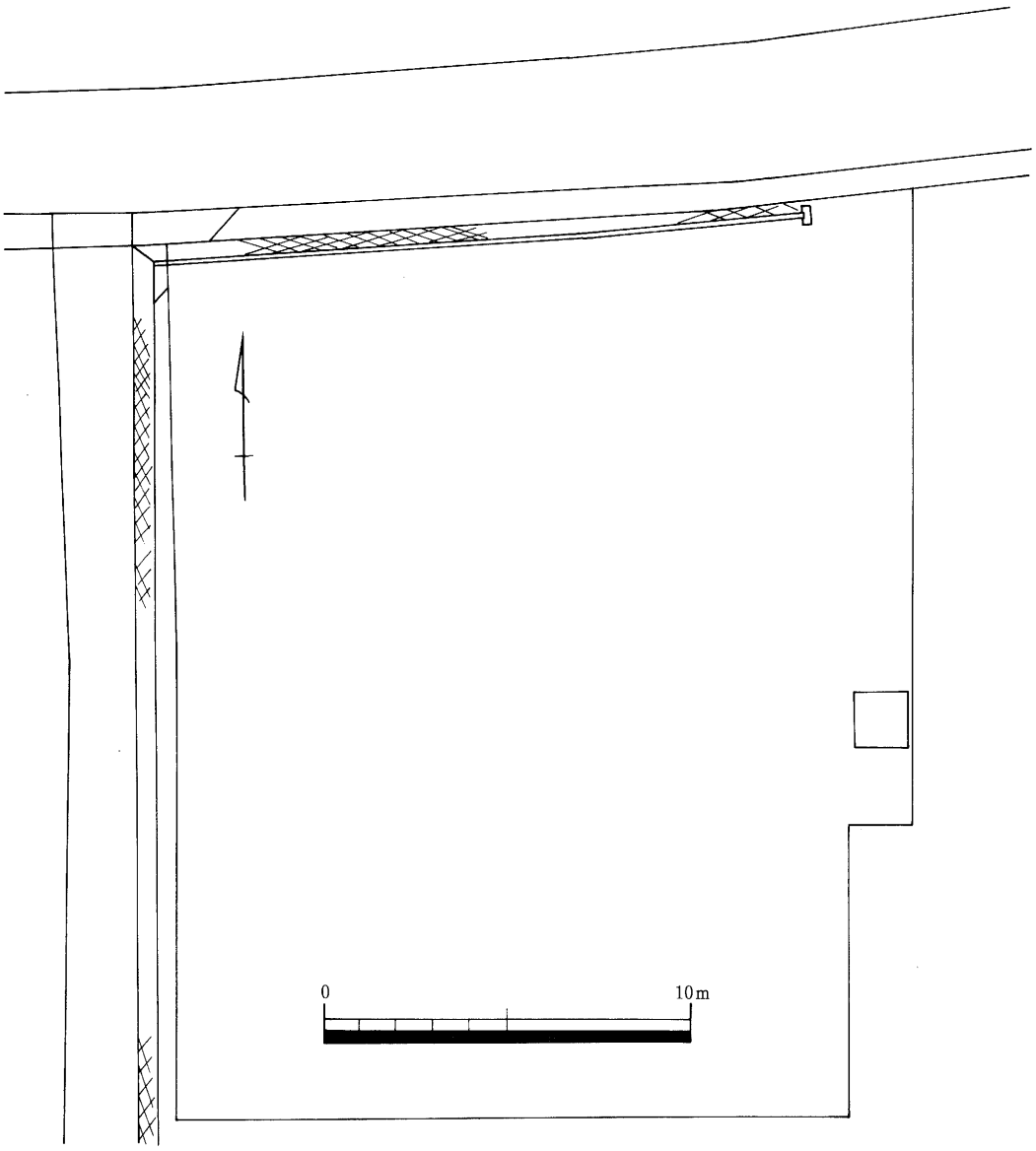



図－１　山ノ井遺跡調査対象地位置図

**97－1次調査**

- 調査対象地　　柏原市山ノ井町730の一部
- 調査期間　　1997年10月13日
- 調査面積　　2.3㎡／472.03㎡
- 調査担当者　　安村　俊史

調査地は、東から西へ傾斜する生駒山地の扇状地に位置し、標高は25ｍ前後を測る。調査は調査対象地の東端、浄化槽予定地に1.5ｍ四方の調査区を設定して実施した。厚さ30～40㎝の表土を除くと灰色砂質土がみられ、この層に中世から近世の遺物が含まれている。調査区の西半では、その下に花崗岩質の赤褐色砂質土がみられ、中世の整地土ではないかと思われる。赤褐色砂質土の下には灰白色砂質土が厚く堆積しているが、この層には遺物を含んでいない。




図－2　調査区位置図

調査は、全体を75cmまで掘り下げた後、南壁沿いのみ130cmまで掘り下げて下層の状況を確認したが、依然と灰白色砂質土が続いており、その下層の状況を確認することはできなかった。

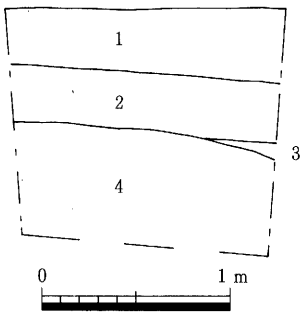
遺物は、いずれも灰色砂質土から出土しており、土師器、瓦器、陶磁器、瓦などがみられる。

1～4は土師器。口径7.5～9.2cm、器高は1.6cm前後。口縁部に丁寧なヨコナデを施し、底部は上げ底を呈する。

5は瓦器椀。口径11.4cm。内面に数周の渦巻き状の暗文がみられる。

6は瓦質のすり鉢。口径33.8cm。外面体部横方向のハケ（5条／cm）の後、縦方向のヘラケズリ調整。内面ハケ（14条／cm）調整の後、すり目（11本／2.0cm）を縦方向に施している。

いずれも15世紀代の遺物と思われる。

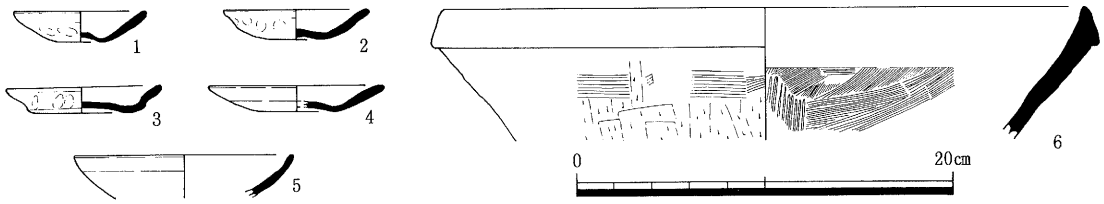



1．表土
2．灰色砂質土（包含層）
3．赤褐色砂質土
4．灰白色砂質土

図－3　南壁土層図

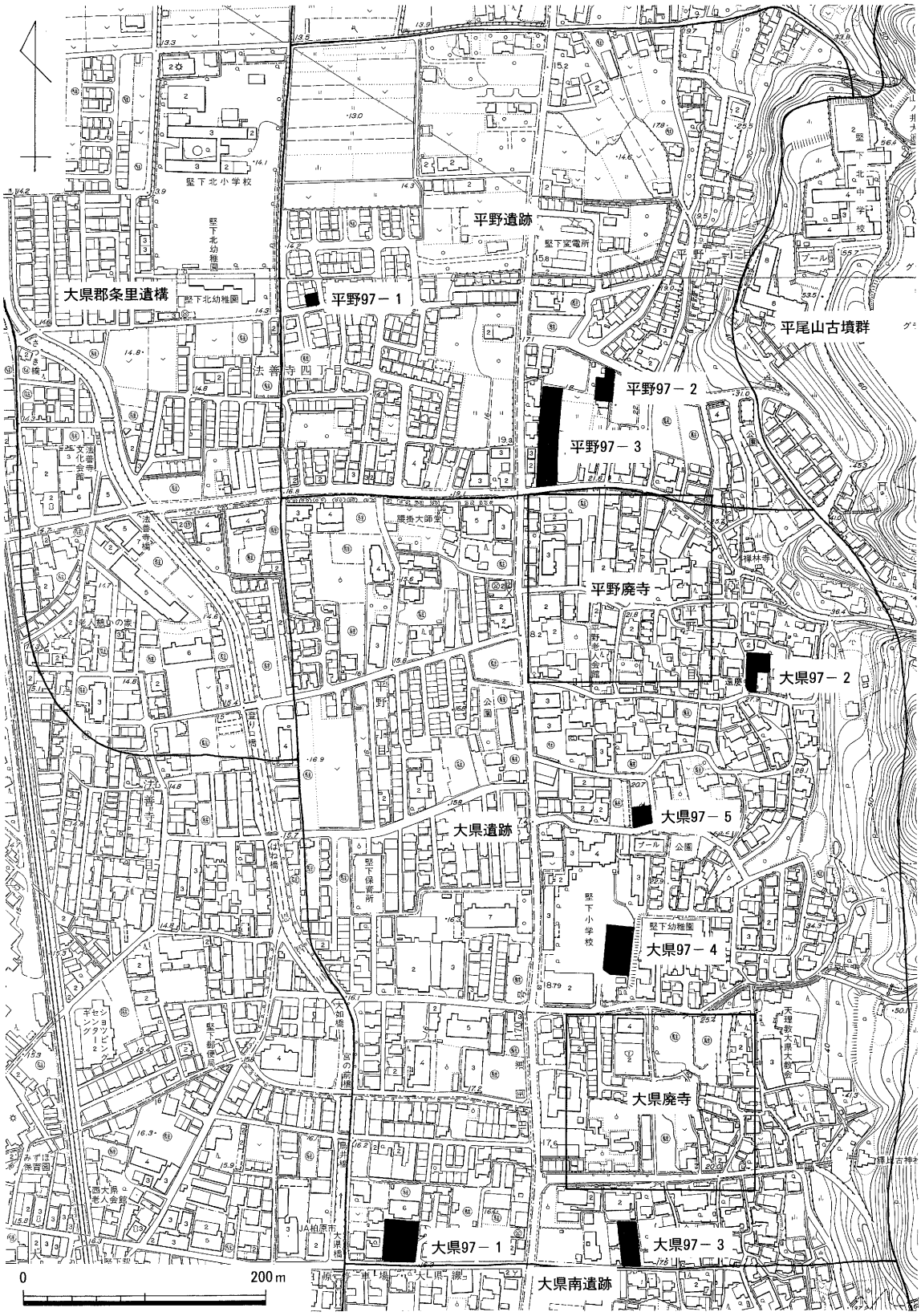
山ノ井遺跡では、これまでの調査でも、中世の良好な遺物が出土している。遺構の状況は明らかにできないが、今回の調査によって、整地層らしき土層を確認できたことにより、周辺に中世の遺跡が存在することが明らかになった。今後の調査に期待したいと思う。

今回の建築工事では、遺物包含層に基礎が達しないため、調査範囲の拡張等は行っていない。




図－4　出土遺物

# 第２章　平野遺跡




図－５　平野遺跡・大県遺跡調査対象地位置図

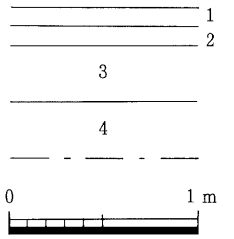
**97－2次調査**

- 調査対象地　　柏原市平野2丁目485
- 調査期間　　1997年6月26日
- 調査面積　　2.3㎡／268.72㎡
- 調査担当者　　安村　俊史

調査対象地の南西部に、1.5ｍ四方の調査区を設定し、調査を実施した。土層は上層から表土、旧耕作土、床土とつづき、地表下50㎝以下に土師器・須恵器を少量含む遺物包含層がみられる。遺物包含層は、灰褐色砂質土であり、土師器は甕・鉢などの小片、須恵器は壺・甕などの小片を含んでいるが、良好な遺物はみられない。おそらく7～8世紀頃の遺物であろう。遺構は認められなかった。

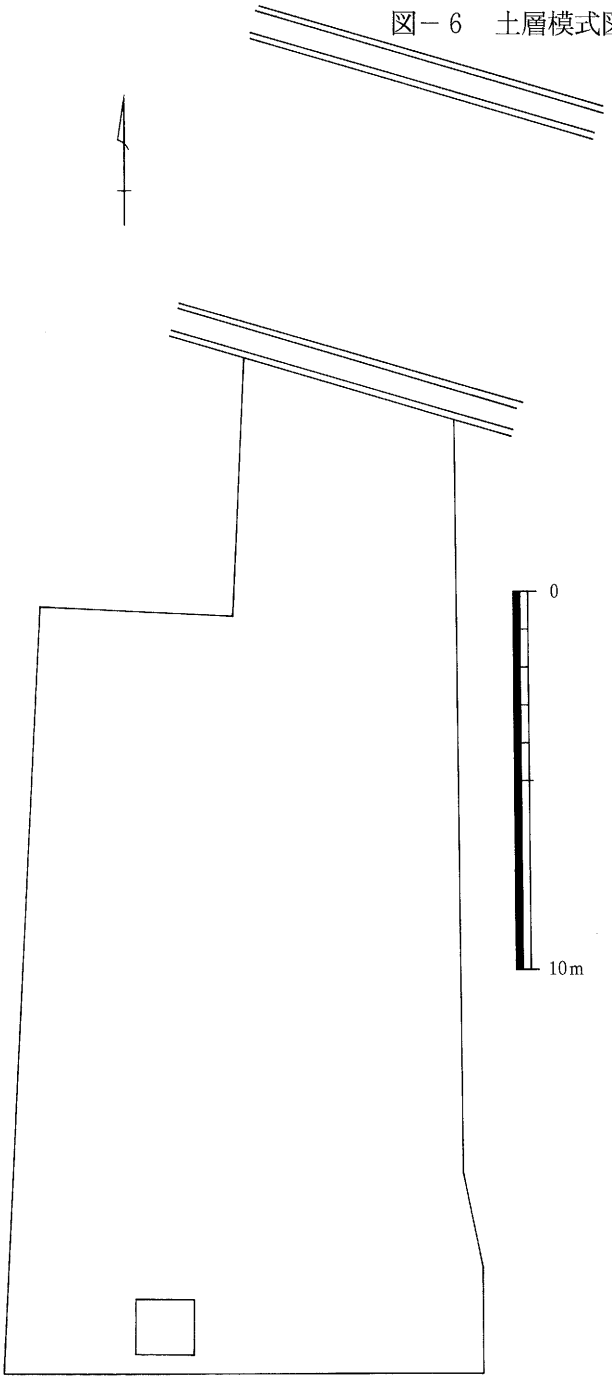
調査では、地表下80㎝まで掘り下げたが、さらに灰褐色砂質土が下へつづいている。周辺では、これまでに弥生時代の遺物が多く発見されており、当調査地付近にも弥生時代の遺跡は広がっていると推定される。今回の調査で確認できた遺物包含層は7～8世紀頃と考えられるため、弥生時代の遺物包含層は、さらにその下に存在するものと思われる。

今回の建築計画では、建物の基礎が遺物包含層に達しないため、これ以上の掘り下げ、調査区の拡張は行わなかった。



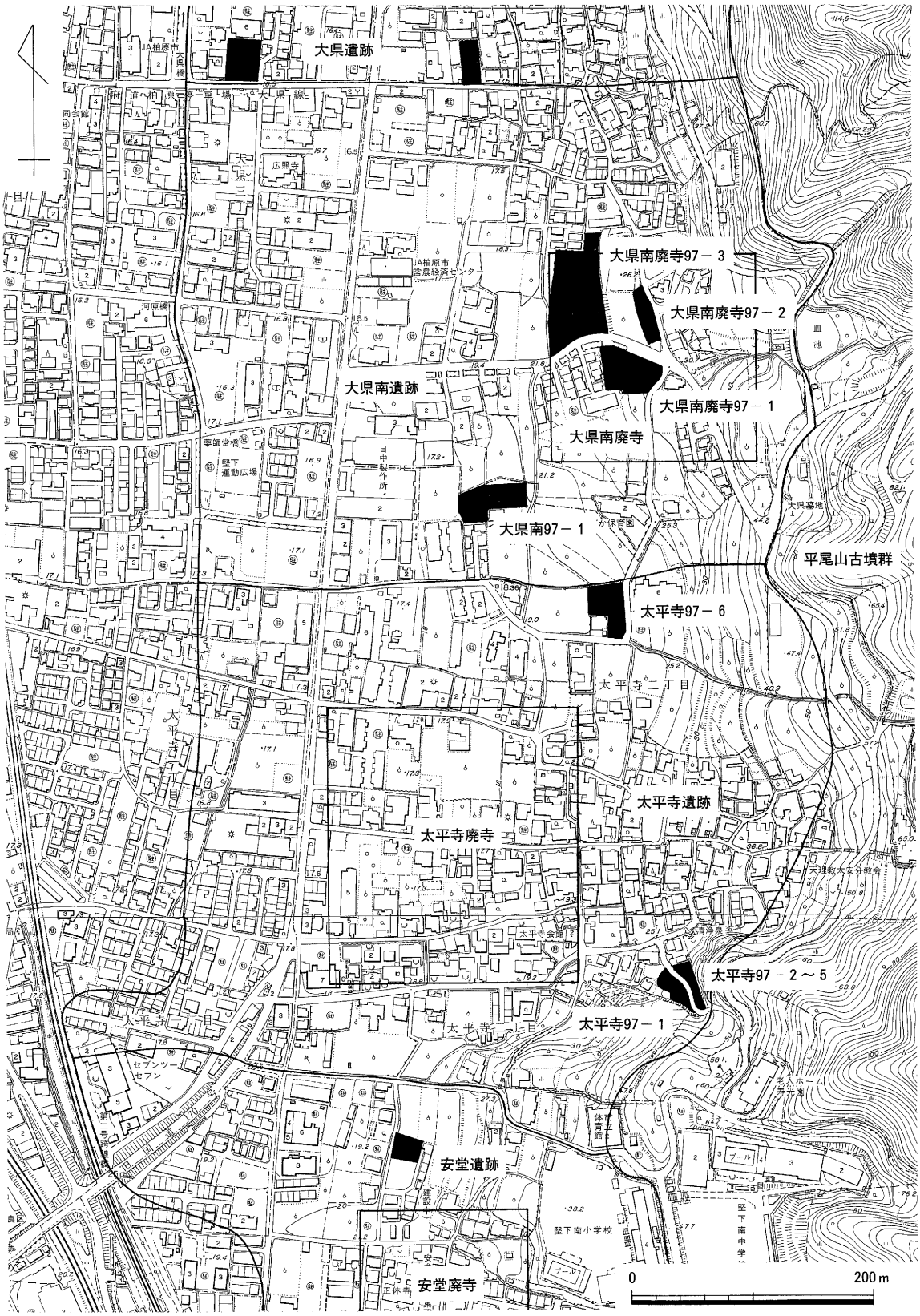

1．表土
2．旧耕土
3．淡灰褐色粘質土（床土）
4．灰褐色砂質土（包含層）

図－6　土層模式図




図－7　調査区位置図

# 第３章　大県南廃寺




図－８　大県南遺跡・太平寺遺跡・大県南廃寺調査対象地位置図

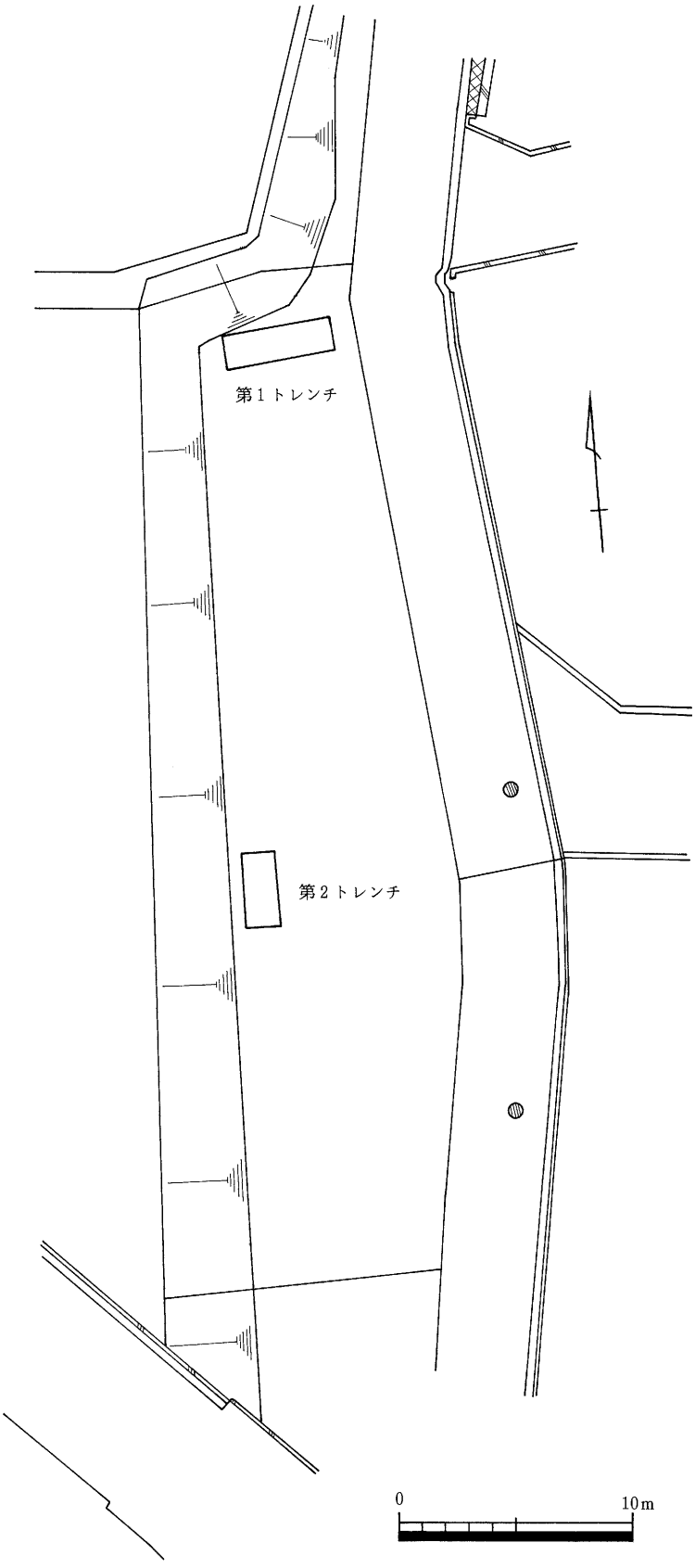
## 97－2次調査

- 調査対象地　柏原市大県4丁目489－1の一部、490－1の一部
- 調査期間　1997年3月17日～3月25日
- 調査面積　11.7㎡／495.41㎡
- 調査担当者　安村　俊史

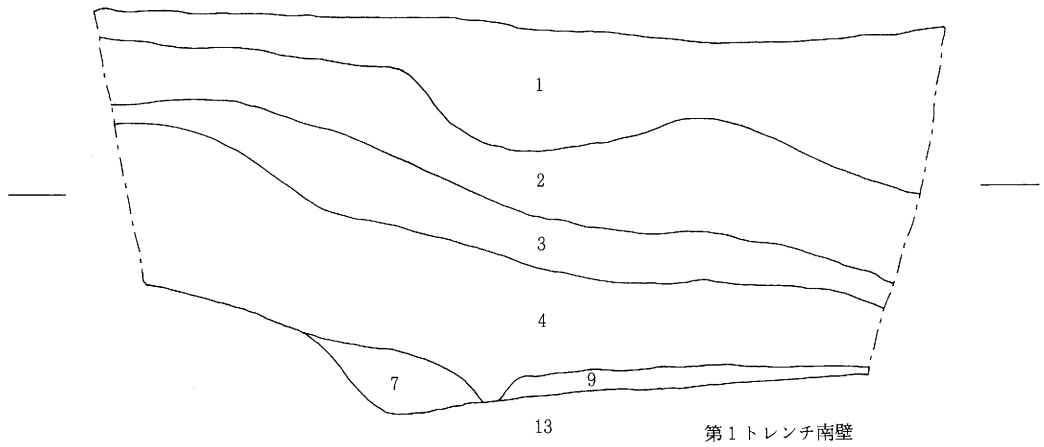
個人住宅建設に伴う宅地造成に先立って発掘調査を実施した。調査対象地の北辺と西辺にコンクリート擁壁を設置する計画であったため、北辺に1.5m×4.6mのトレンチを設定し、これを第1トレンチ、西辺には1.5m×3.2mのトレンチを設定し、これを第2トレンチとした。

第1トレンチでは、厚い盛土の下に現代のゴミを投棄した層がみられ、その下には少量の瓦や土師器を含む灰褐色土がみられる。東寄りでは、この層の下で緑灰色粘質土の地山に達し、西側へ徐々に下がった後、段をなして平坦となる。この段をなす部分に近世の摺鉢や瓦を含む灰色粘質土がみられ、やや大きめの礫を含んでいることから、暗渠状の施設であったのかもしれない。それより西側の地山直上には、灰色砂礫土がみられ、7～8世紀の土師器や瓦を含んでいる。遺物包含層と考えてよいであろう。これら以外には、遺構は確認できなかった。

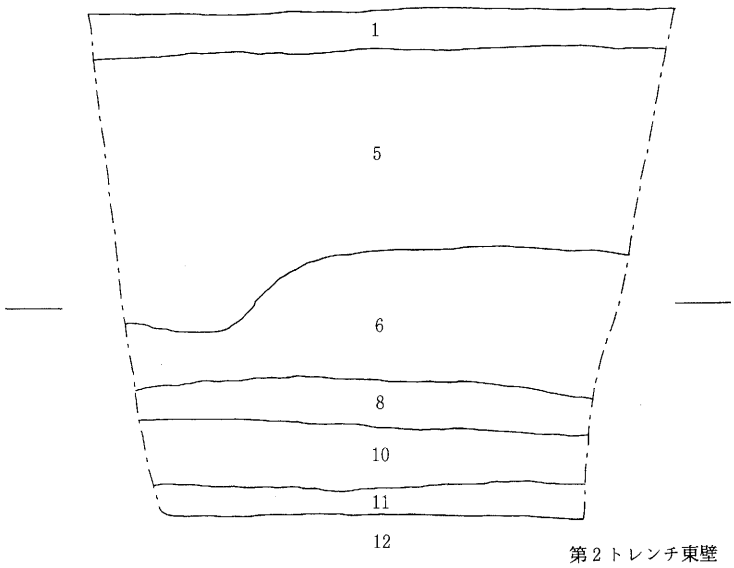
第2トレンチでは、やはり厚い盛土下に黒灰色土がみられ、それ以下




図－9　調査区位置図




第１トレンチ南壁




第２トレンチ東壁

1．表土
2．灰色土
3．ゴミ層
4．灰褐色土
5．褐色砂礫土（盛土）
6．青灰色粘質土（盛土）
7．灰色粘質土
8．黒灰色土
9．灰色砂礫土（包含層）
10. 青灰色砂質土（包含層）
11. 灰色砂質土（包含層）
12. 暗灰色砂質土（包含層）
13. 緑灰色粘質土（礫混）〔地山〕

図－10　土層図

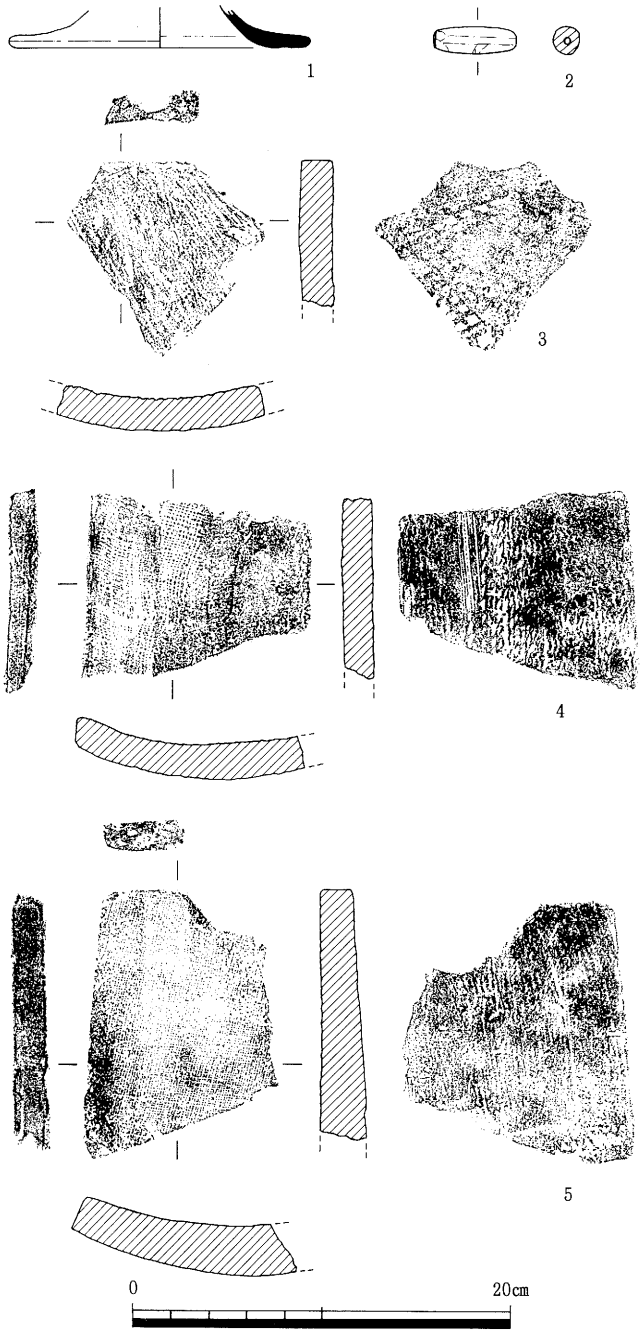
が遺物包含層に相当すると考えられる。盛土は最近のものであり、少量の奈良時代頃の瓦を含んでいる。遺物包含層は地表下220cm以下にみられ、上層から青灰色砂質土、灰色砂質土、暗灰色砂質土と続く。土師器の杯・高杯・甕、須恵器の壺・甕、平瓦・丸瓦などの遺物が出土しているが、良好な資料は少ない。これらの遺物は７～８世紀のものであるが、二次堆積の可能性が高いのではないかと考えている。調査では地表下270cm前後まで掘り下げたが、地山には達せず、遺物包含層が

さらにつづいている。

遺物は、土師器・須恵器・瓦などが出土している。土師器高杯(1)は「ハ」の字形にひろがる脚部に端部は丸味をもつ。内面脚柱部はヘラケズリ調整、内面裾部から外面にかけて工具によるナデ調整が施される。裾径16.0cm。第2トレンチ遺物包含層から出土している。2は完形品の土錘。長さ4.3cm、幅1.5cm、厚さ1.3cm、重さ4.8g。ユビナデ調整を施し、色調は橙色を呈する。第2トレンチの盛土から出土している。

3から5は平瓦。3は凸面に正方形の格子叩き目、凹面に布目痕と糸切り痕が残る。4は凸面に縄叩き目、凹面に布目痕と模骨痕がみられる。5は凸面に板状工具によるナデ、凹面には布目痕と模骨痕が残る。4・5は桶巻き作りによるものと思われる。3・5は第2トレンチの盛土から、4は第1トレンチの盛土から、それぞれ出土している。

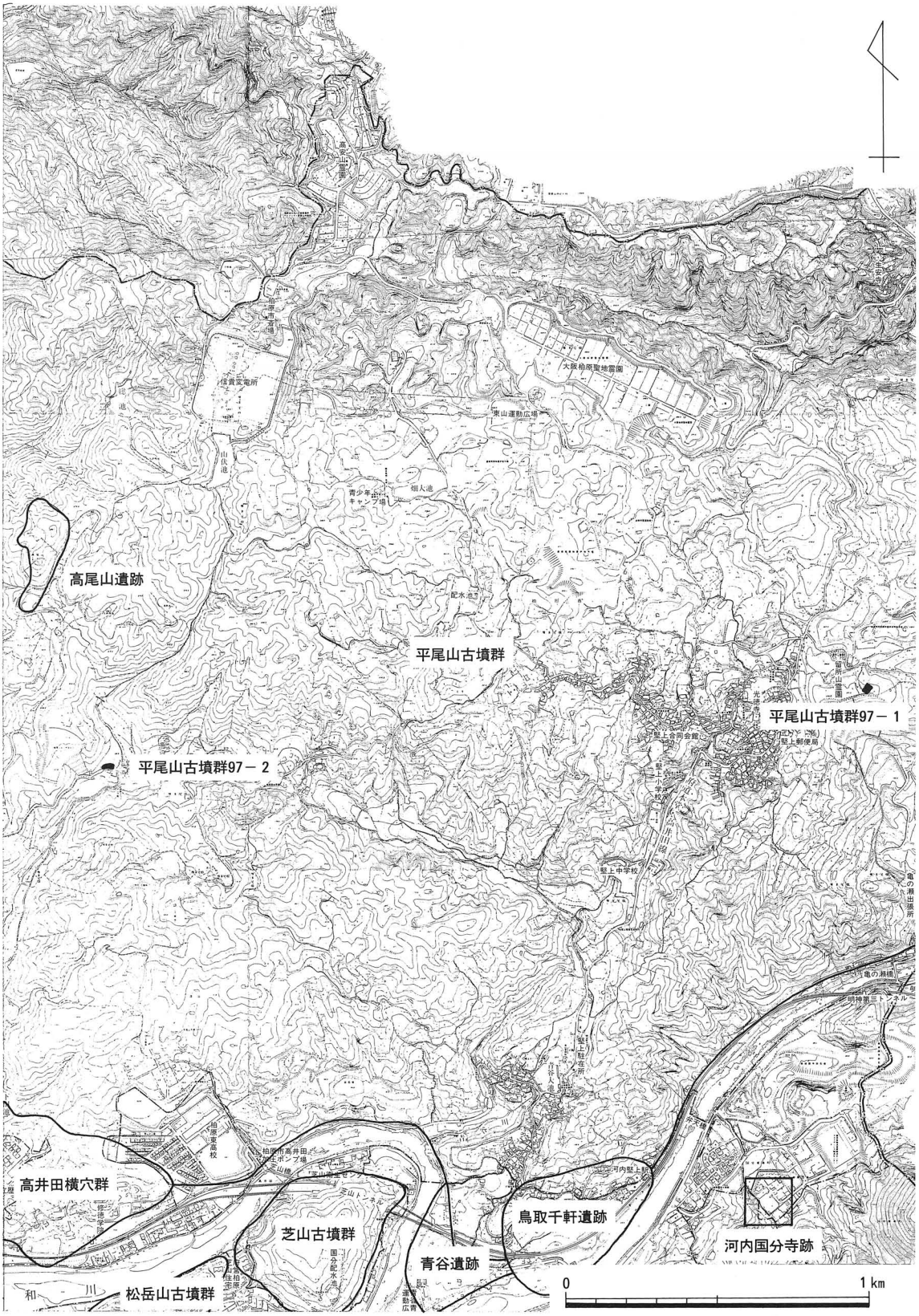
出土遺物は、7～8世紀のものを中心とし、一部古墳時代のものを含んでいる。また、近世の瓦や陶磁器も少量みられる。これらのなかで、7～8世紀の遺物は、おそらく調査地の東側台地上に存在したと考えられる大県南廃寺（山下寺）に伴うものであろう。土層の堆積状況からは、東側の台地削平に伴って削られた土砂が、標高の低い当調査地付近に盛り土されたと推定され、遺物もその土砂とともに運ばれてきたものであろう。



図－11　出土遺物

コンクリート擁壁の設置工事に伴って立ち会ったが、少量の瓦などを採集したのみで、新たな知見は認められなかった。

# 第４章　平尾山古墳群




図－12　平尾山古墳群調査対象地位置図

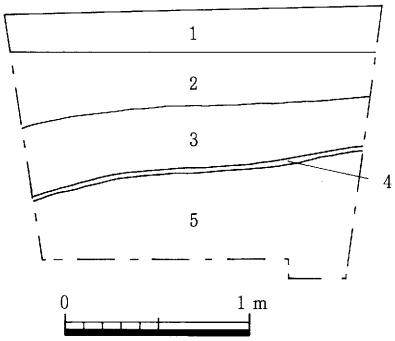
**97－2次調査**

・調査対象地　　柏原市大字太平寺788 、789 、792 、793

・調査期間　　1997年5月1日

・調査面積　　3.0㎡／616.99㎡

・調査担当者　　安村　俊史




1．耕土
2．床土（灰色粘質土）
3．黒褐色粘質土
4．黄褐色粘質土
5．灰褐色粘質土

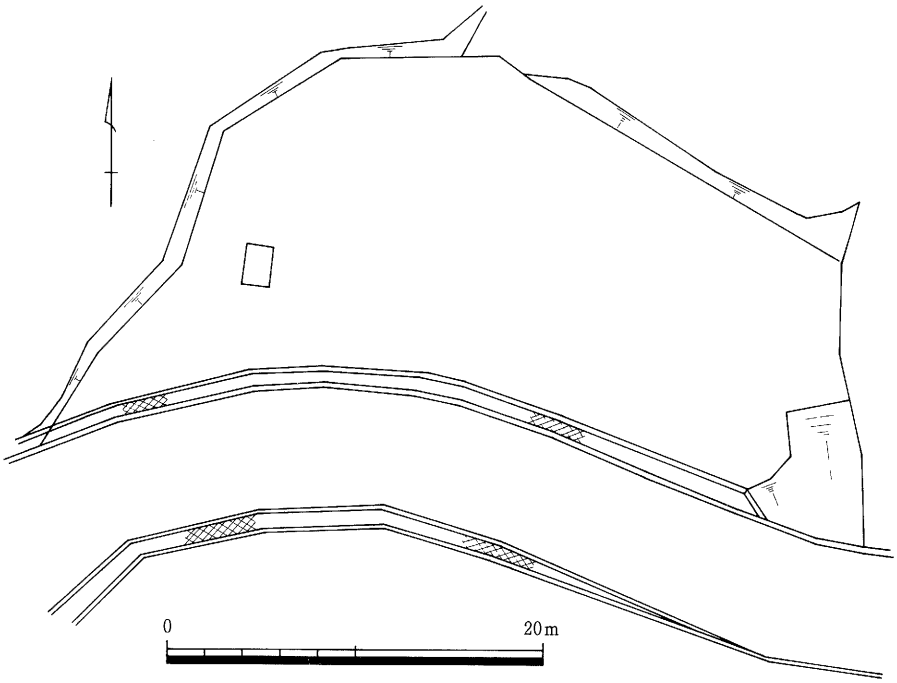
図－13　西壁土層図

調査対象地は南向きの斜面で、前面の道路からは2ｍ前後の高さにある。調査は対象地の西端に1.5ｍ×2.0ｍの調査区を設定して実施した。

土層は、上層から耕作土、床土、黒褐色粘質土とつづき、黒褐色粘質土から土師器・須恵器・サヌカイト片が出土した。その下には無遺物の灰褐色粘質土がみられ、灰褐色粘質土上面には黄褐色粘質土が薄く堆積している。おそらく、この黄褐色粘質土上面がある時期の遺構面だったと推定され、黒褐色粘質土が遺物包含層に相当するのであろう。黄褐色粘質土は地表下60～100㎝の深さを測り、北から南へと傾斜している。調査では、最も深い部分で145㎝まで掘り下げたが、土層に変化はみられなかった。

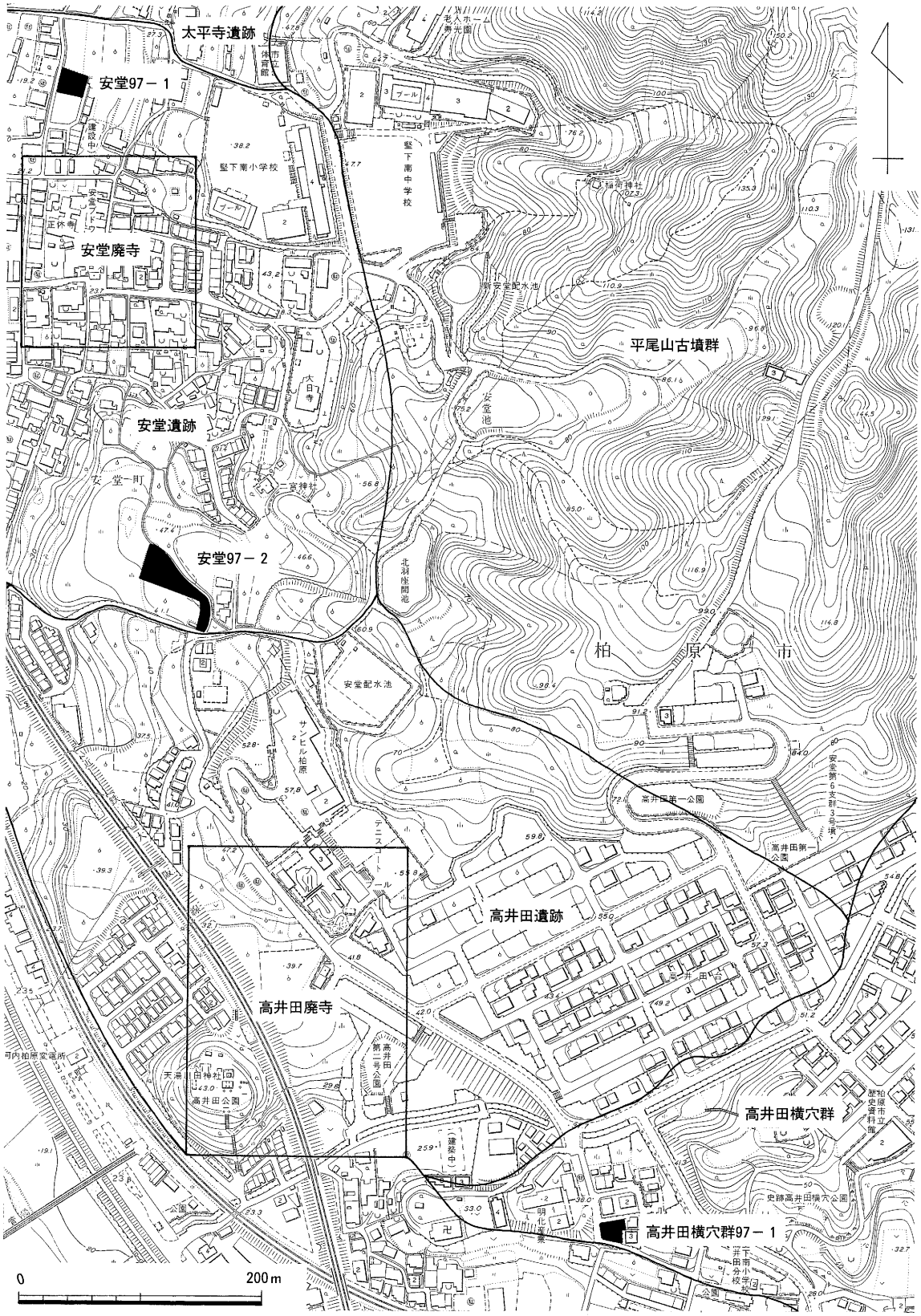
出土した遺物は、土師器の甕、須恵器の杯・壺のいずれも小片とサヌカイトの剥片である。土師器・須恵器は古墳に伴う遺物かもしれない。サヌカイト剥片の出土は、高尾山遺跡など弥生時代の高地性集落に関連するものかもしれない。

建物の基礎は遺物包含層まで達しないため、調査区の拡張は行っていない。




図－14　調査区位置図

# 第５章　高井田横穴群



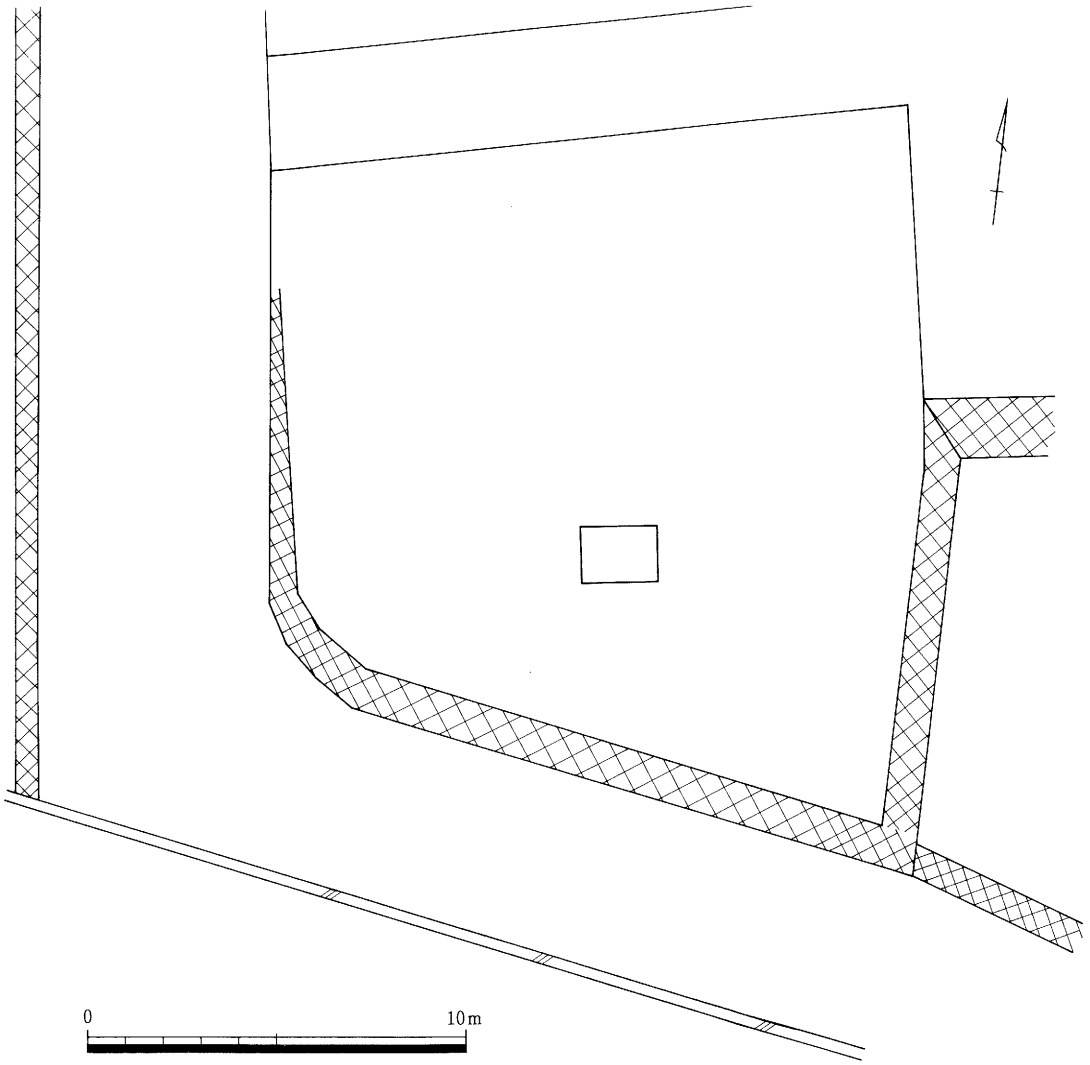

図－15　安堂遺跡・高井田横穴群調査対象地位置図

**97－1次調査**

- 調査対象地　　柏原市大字高井田617－6
- 調査期間　　1997年9月16日
- 調査面積　　3.0㎡／283.57㎡
- 調査担当者　　安村　俊史

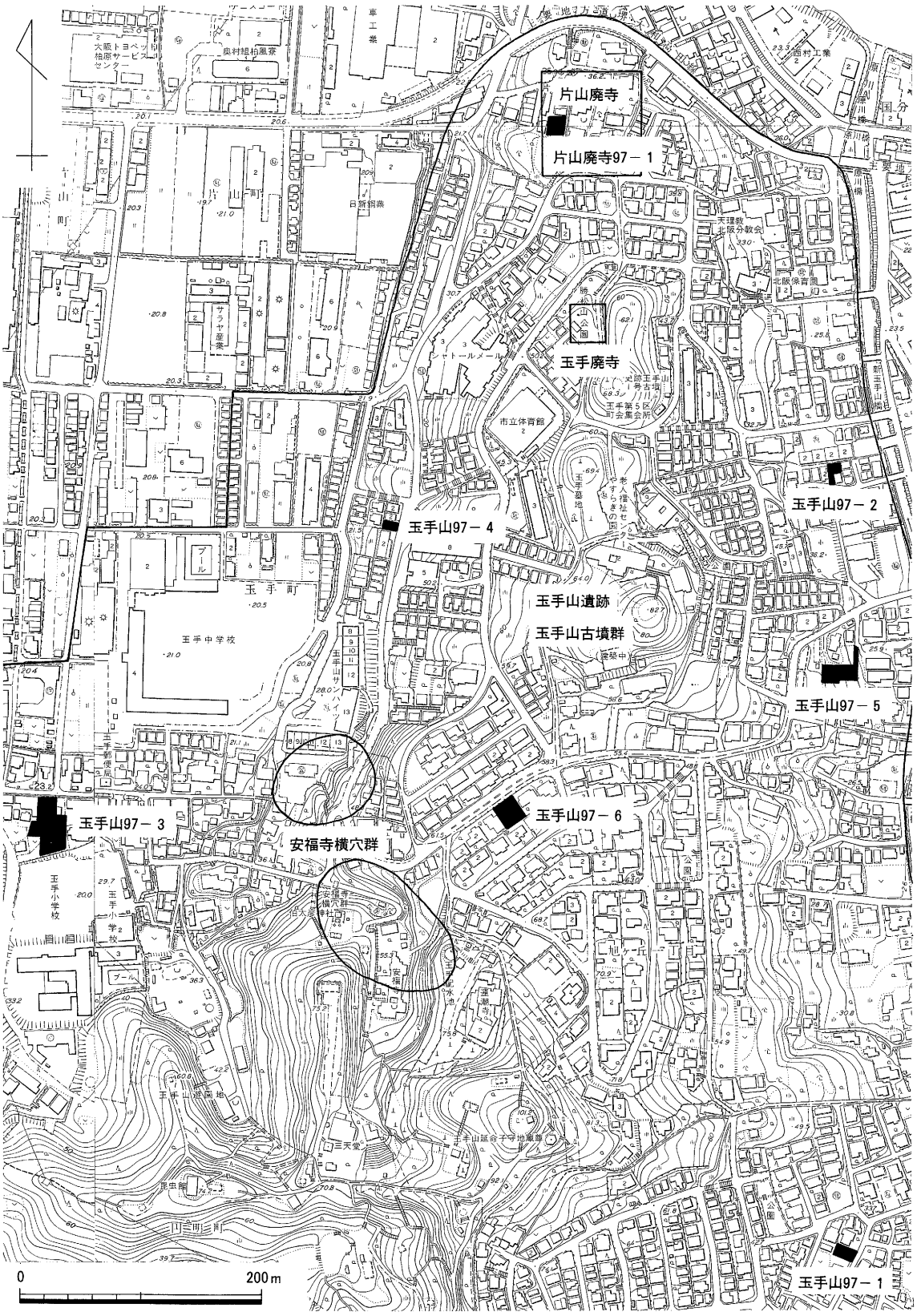
調査地は、高井田横穴群が存在する丘陵の西端、南斜面に位置する。調査地の西側と南側に道路があるが、南側の道路との比高差は最大で5ｍにおよぶ。調査は、対象地の中央南寄りに1.5ｍ×2.0ｍの調査区を設定して実施した。地表下110㎝まで掘り下げたが、化粧品の容器などを含む現代の盛土がつづいており、その下までは確認できなかった。

盛土内からは土師器・須恵器の小片が少量出土しており、6世紀代のものと思われる。これらの遺物は、周辺に存在したと推定される横穴、およびその破壊によってもたらされた盛土に伴って混入してもたらされた遺物ではないかと考えられる。




図－16　調査区位置図

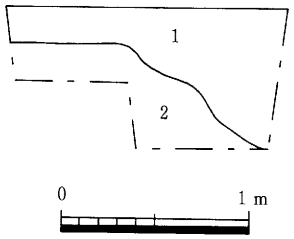
# 第６章　玉手山遺跡




図－17　玉手山遺跡・片山廃寺調査対象地位置図

**97－4次調査**

- 調査対象地　　柏原市玉手町145－56
- 調査期間　　1997年8月25日
- 調査面積　　2.3㎡／96.15㎡
- 調査担当者　　安村　俊史



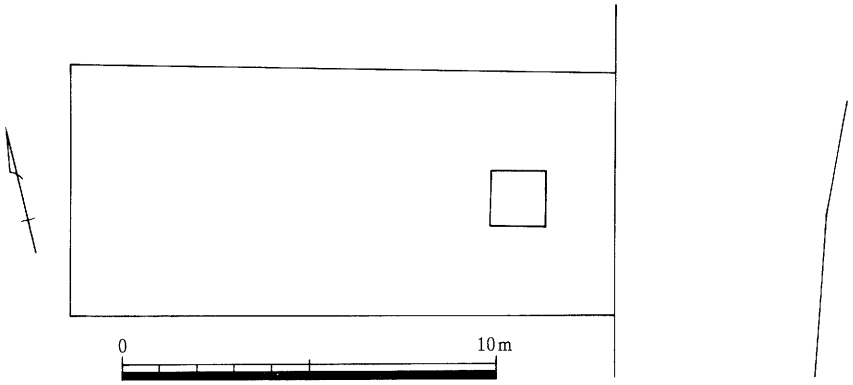
1．褐色土　　2．青灰色粘質土
図－18　北壁土層図

調査地は玉手山丘陵の西側斜面に位置する。調査は、対象地の東端に1.5m四方の調査区を設定して実施した。

地表下20cmまでは褐色土の盛土がみられ、調査区東半では既設建物に伴う攪乱によって大きく損なわれている。盛土下には青灰色粘質土がみられ、少量の遺物を含んでいる。青灰色粘質土は、湿地状の地形に伴う埋土と考えられ、調査区東側の道路を挟んでさらに東側でも同様な土層を確認していることから、調査地付近は谷、もしくは池のような地形であったと考えられる。

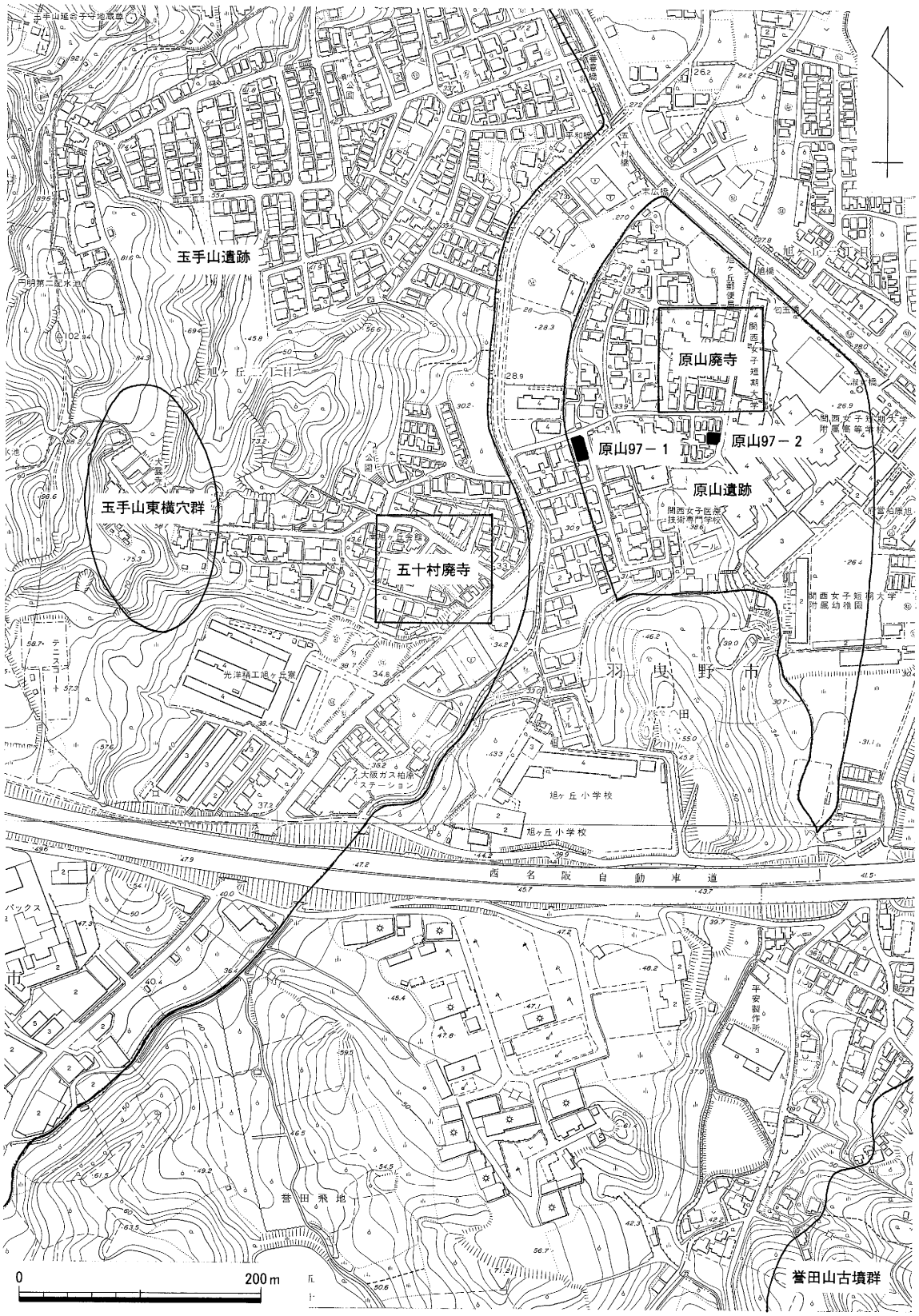
遺物は少ないが、須恵器の甕体部片を確認しており、おそらく7世紀頃の遺物と考えられる。顕著な遺物が認められず、遺構も確認できないことから、調査区の拡張や掘り下げは行わなかった。

玉手山遺跡では、弥生時代を始め、古墳時代の後期から奈良時代にかけて、そして中世と人々の生活の痕跡が認められる。しかし、戦後の宅地開発などに伴う大規模な造成工事によって、遺跡の大半が破壊されてしまったようである。玉手山古墳群として有名な前期の前方後円墳にしても例外ではなく、半数の古墳は破壊され、残された古墳の多くも大きく改変されている。今回の調査地周辺にも古代の集落などが存在したものと推定されるが、ほとんど消滅してしまったようである。今回出土した一片の須恵器がそのへんの事情を物語っているように思われるのである。今後の調査によって、少しでも遺跡の状況が明らかにされることを信じたいと思う。



図－19　調査区位置図

# 第７章　原山遺跡




図－20　原山遺跡調査対象地位置図

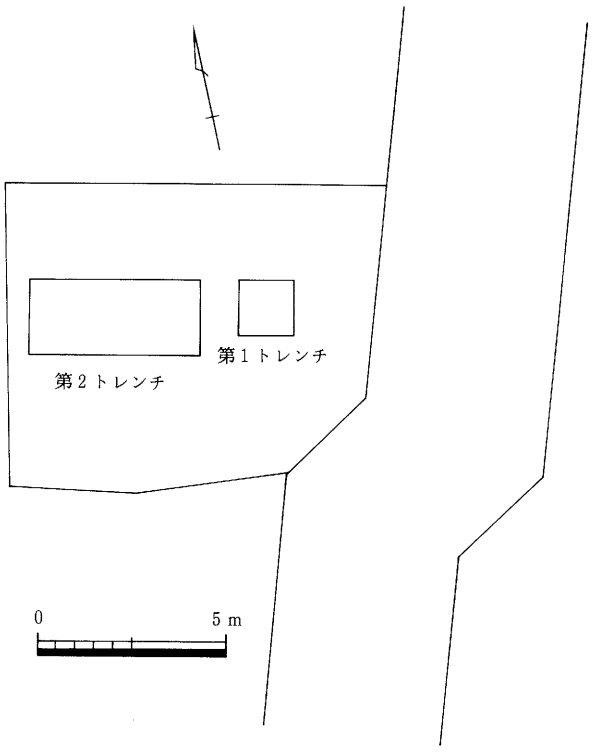
**97－2次調査**

・調査対象地　　柏原市旭ケ丘3丁目4793－12
・調査期間　　1997年8月26日
・調査面積　　11.3㎡／74.7㎡
・調査担当者　　安村　俊史

調査地は原山廃寺の南東に位置し、これまでの周辺の調査では、古墳時代から奈良時代の掘立柱建物などの遺構が確認されている。まず、浄化槽予定地に1.5m四方の調査区を設定し、調査を行ったところ、ピットが確認されたため、調査区を拡張して調査を実施する必要があると判断し、施工業者と協議したが、工期上、調査に日程を割くことはできないということであり、急遽、施工業者から重機の提供を受け、2.0m×4.5mの範囲を重機で掘り下げ、遺構の確認を実施することにした。最初に設定したトレンチを第1トレンチ、重機によって掘り下げたトレンチを第2トレンチとして、ここでは報告する。

第1トレンチでは、地表下40cm前後、T.P.31.1～31.2m前後で暗黄褐色粘質土の地山に至る。地山面で、直径約20cmの円形平面のピットが2個確認された。埋土は暗褐色粘質土で、少量の土師器が出土している。地山の直上には10cm前後の厚さの褐色砂礫土がみられ、少量の遺物を含んでいるが、二次堆積ではないかと思われる。トレンチの南半は、既設の建物に伴うと思われる攪乱で損なわれているようである。この調査成果によって、第1トレンチの西側に第2トレンチを設定することにした。

第2トレンチでは、第1トレンチと同様に地表下40cm前後で地山に至る。重機で地山まで掘り下げた後、人力で精査をし、円形ピット2個、方形ピット2個を確認した。円形ピットは直径が50cm前後、柱の直径は16cm前後と推定される。深さは最も深い部分で10cm前後を残すにすぎない。方形ピットは、一辺40～60cm前後を測る。柱の直径は14cm前後と推定され、ピットの深さは約20cm、柱部分では30cm以上の深さを測る。円形ピットと方形ピットはそれぞれがほぼ同規模の遺構であり、それぞれが建物に対応するピットである可能性が高いと思われる。そのように考えるならば、円形ピットの柱間距離は1.5m、方形ピットの柱間距離は2.5mとなる。

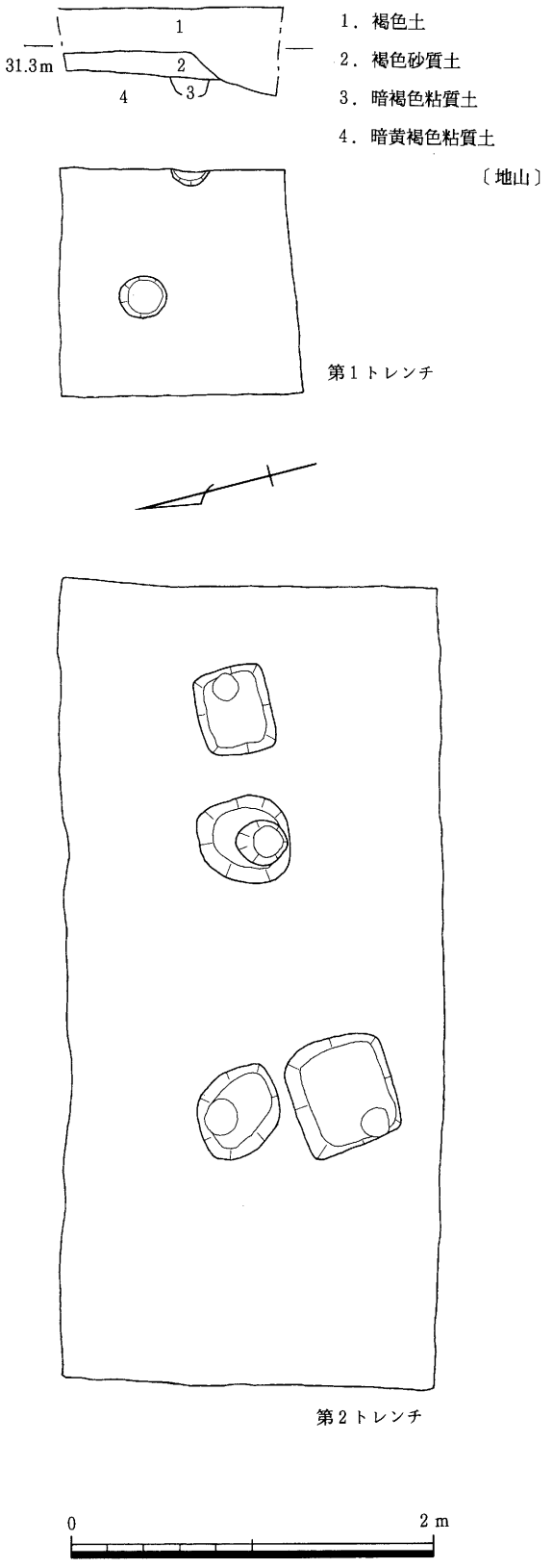



図－21　調査区位置図

遺物は、各ピットから土師器・須恵器の小片が出土しており、褐色砂質土からも土師器・須恵器・サヌカイト原石などが出土している。いずれも小片であるため、時期を明確にしがたいが、須恵器の杯や土師器の杯など、時期を明らかにできるものはいずれも６～７世紀代の特徴をもっている。確認されたピットも、おそらくその時期の掘立柱建物に伴うものと考えて間違いないであろう。そのなかで、第２トレンチの方形ピットがほぼ東西に並びそうであることも注目できるであろう。

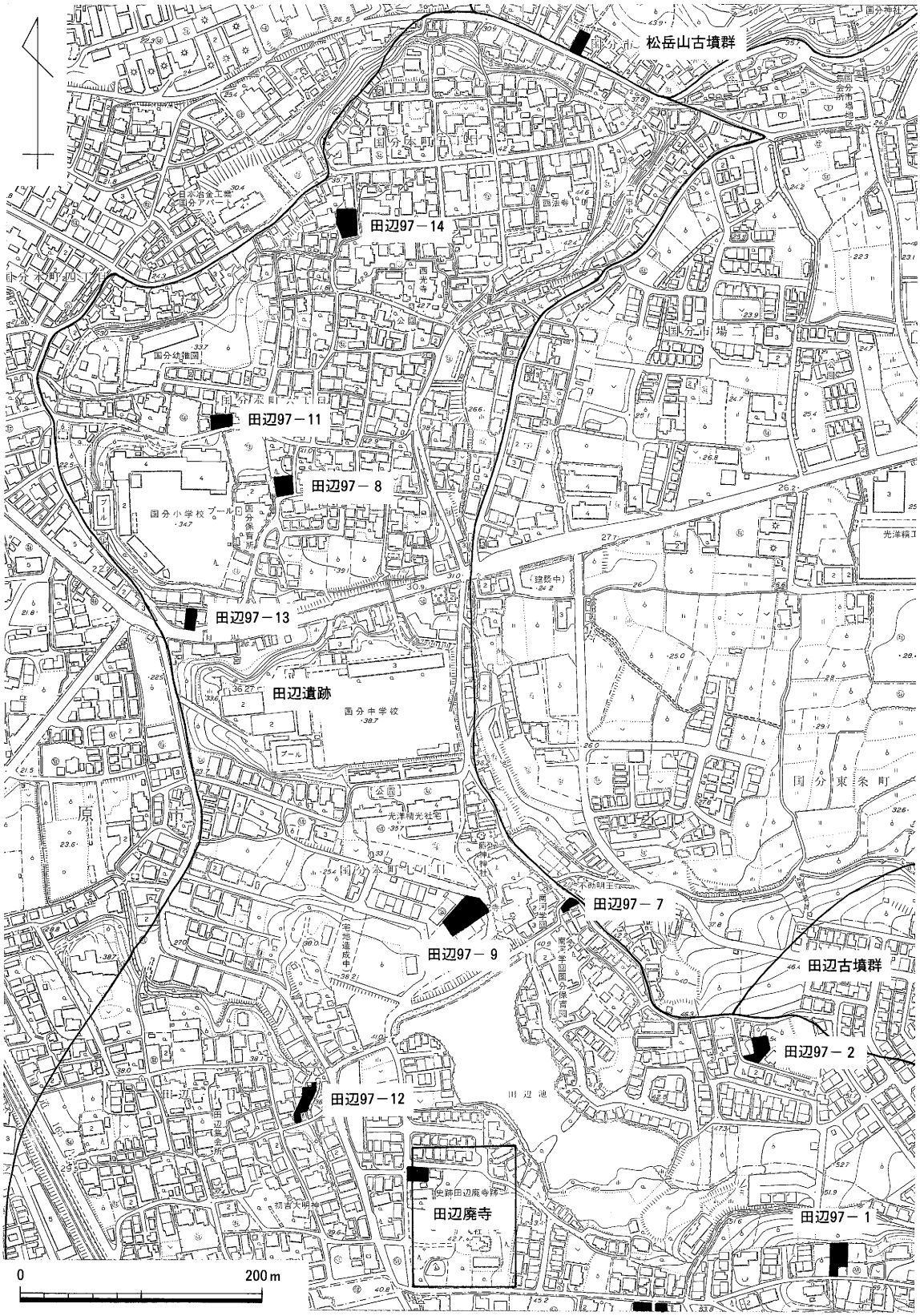
調査地の東側に位置する関西女子短期大学構内のこれまでの発掘調査においても古墳時代から奈良時代にかけての住居跡が多数確認されており、調査地の西側でも、遺構こそ明確でないものの、同時期の遺物が出土することが確認されている。これらの事実から、７世紀中葉前後に建立されたと推定される原山廃寺の建立に関わった氏族の居住地が調査地周辺に広がっていたと考えられる。また、７世紀以後の遺構については、寺院に伴う施設である可能性も考慮にいれたうえで、今後の調査を進めていく必要があるだろう。

今回の調査では、遺構が確認されたにも関わらず、十分な調査を実施することができず、残念に思うが、それなりの調査成果をあげることはできたと考えている。今後はこのような事態を防ぐべく、連絡を密にとって対処していきたいと考えている。




図－22　土層図・平面図

# 第８章　田辺遺跡




図－23　田辺遺跡調査対象地位置図

**97－7次調査**

・調査対象地　　柏原市国分本町７丁目1936－１

・調査期間　　1997年８月11日

・調査面積　　2.3㎡／74.58㎡

・調査担当者　　安村　俊史

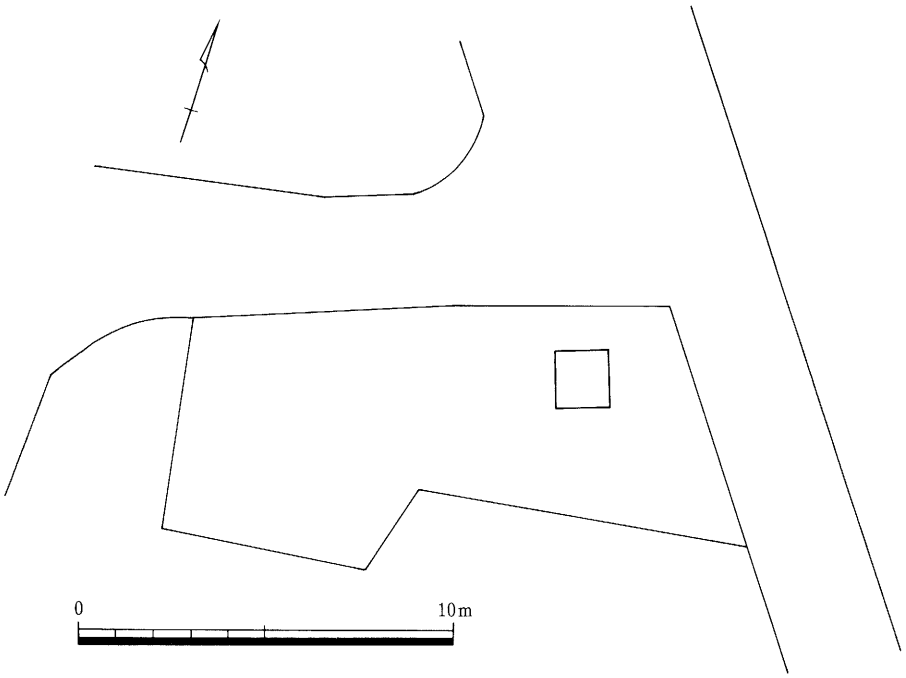
調査地は、南東から北西へのびる細い丘陵上に位置し、とくに北側は大きく落ち込んで低湿地へと至る。調査地の東には古墳時代終末期から奈良時代にかけての田辺古墳群・墳墓群があり、南側は奈良時代の瓦窯が存在した田辺池への斜面となる。北西には鍛冶や鋳銅の遺物が多量に出土した国分中学校・国分小学校内の調査地がある。

調査は、調査対象地の東寄りに1.5ｍ四方の調査区を設定して実施した。薄い表土を剥ぐと、多量の瓦や陶磁器を含む土層がみられる。表土下は、複雑な切り合いを示す遺構がみられる。確認できた遺構は土坑４基、ピット３個、地山は明黄褐色粘質土である。

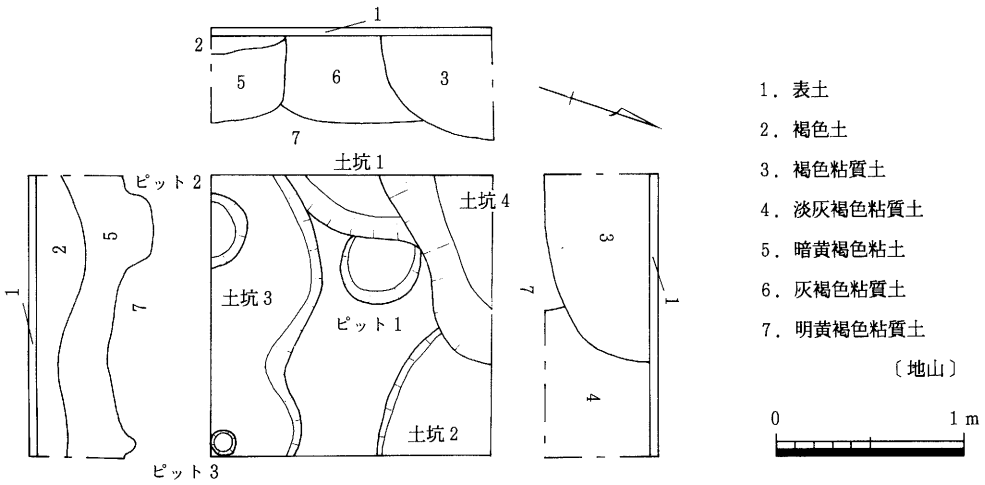
土坑１は、土坑２・４によって切られている。直径80㎝以上の円形に近い平面形を呈すると考えられ、深さは46㎝を測る。埋土は灰褐色粘質土、瓦などが出土している。

土坑２は、土坑４に切られている。直径１ｍ以上の円形平面の土坑と思われる。深さは55㎝まで掘り下げたが、底は検出できていない。埋土は淡灰褐色粘質土で、やはり瓦・陶磁器などが出土している。

土坑３は、円形を２基連結したような平面形を呈し、長さは150㎝以上を測るが調査区外へのびており、確認できない。幅も60㎝以上で、調査区外へのびている。土坑底にはピットが２個確認さ




図－24　調査区位置図




図－25　平面図・土層図

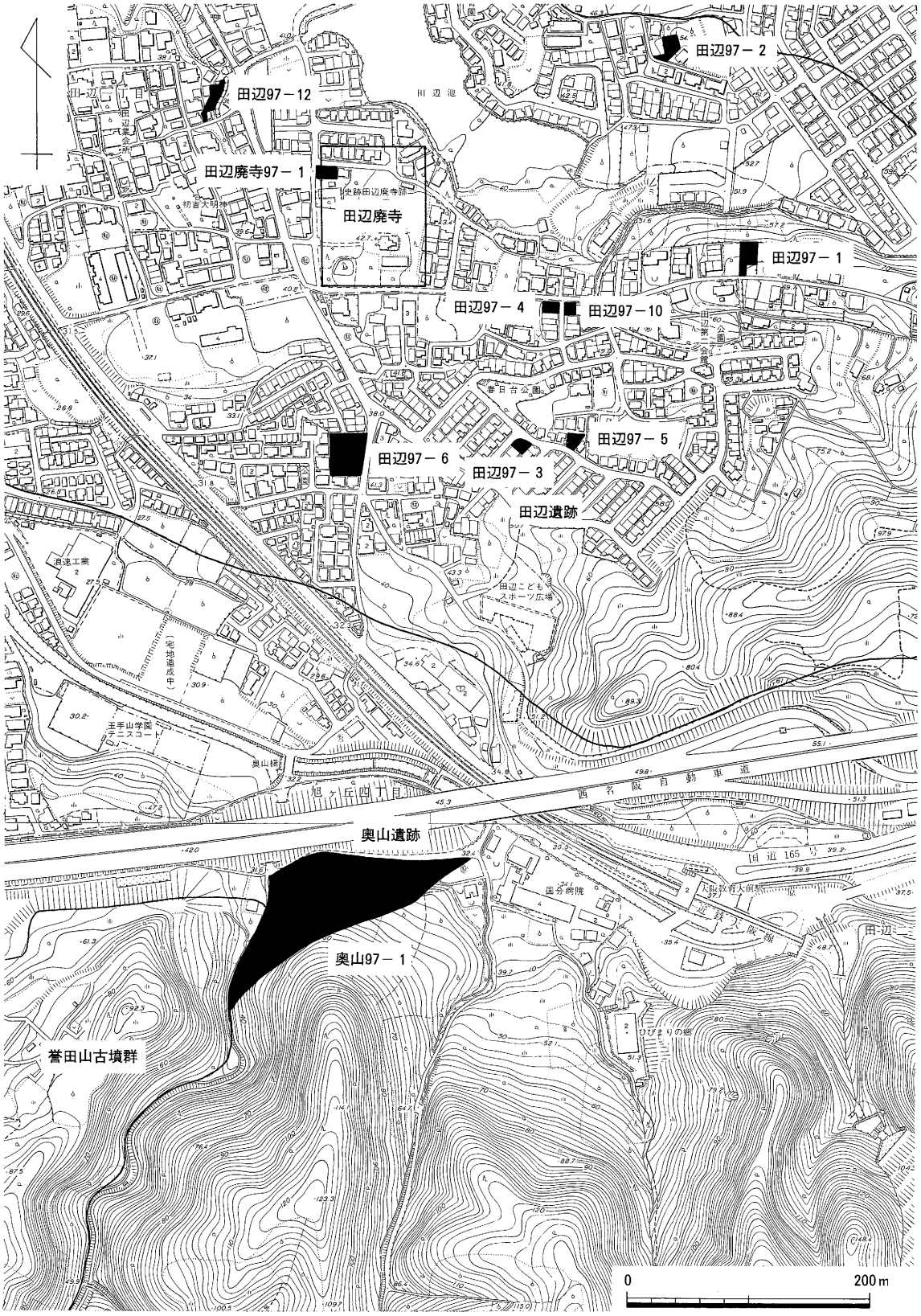
れ、東側のピット３は直径12cm、深さ８cmを測る円形、西側のピット２は直径40cm、深さ18cmを測るやはり円形の平面形を呈するピットである。底面はピット２とピット３の間で最も高く、ピット２の底面が最も深くなる。埋土はピット内も含めて暗黄褐色粘土の単一土であり、焼土を含んでいる。焼土はピット３周辺で特に多いが、壁面や底面の火化は認められなかった。土坑３からは、瓦が多量に出土している。

土坑４は、長さ120cm以上、深さ56cmを測る土坑である。土坑１・２を切っており、それらよりも新しいことがわかる。埋土は褐色粘質土で、やはり瓦などが出土している。

ピット１は、土坑１に接しており、土坑１に関係する遺構かもしれない。直径40cm、深さは20cmを測る。

瓦や陶磁器は近世から近代にかけてのものと思われ、土坑３は瓦窯に関係ある遺構ではないかと思われる。他の土坑は、粘土取り、あるいは瓦の廃棄土坑ではないだろうか。ただし、遺構の状況があまりよくないことと、調査範囲が限られていたため、詳細は不明である。田辺周辺では、戦前まで瓦屋が多数存在したということであり、これまでも近世以降の瓦の廃棄土坑などが数ケ所で確認されている。今回検出した遺構も、これに関連するものと思われる。

# 第９章　田辺廃寺




図－26　田辺遺跡・田辺廃寺・奥山遺跡調査対象地位置図

**97－1次調査**

・調査対象地　　柏原市田辺1丁目2043甲・乙、2044の一部

・調査期間　　1997年7月16日～18日

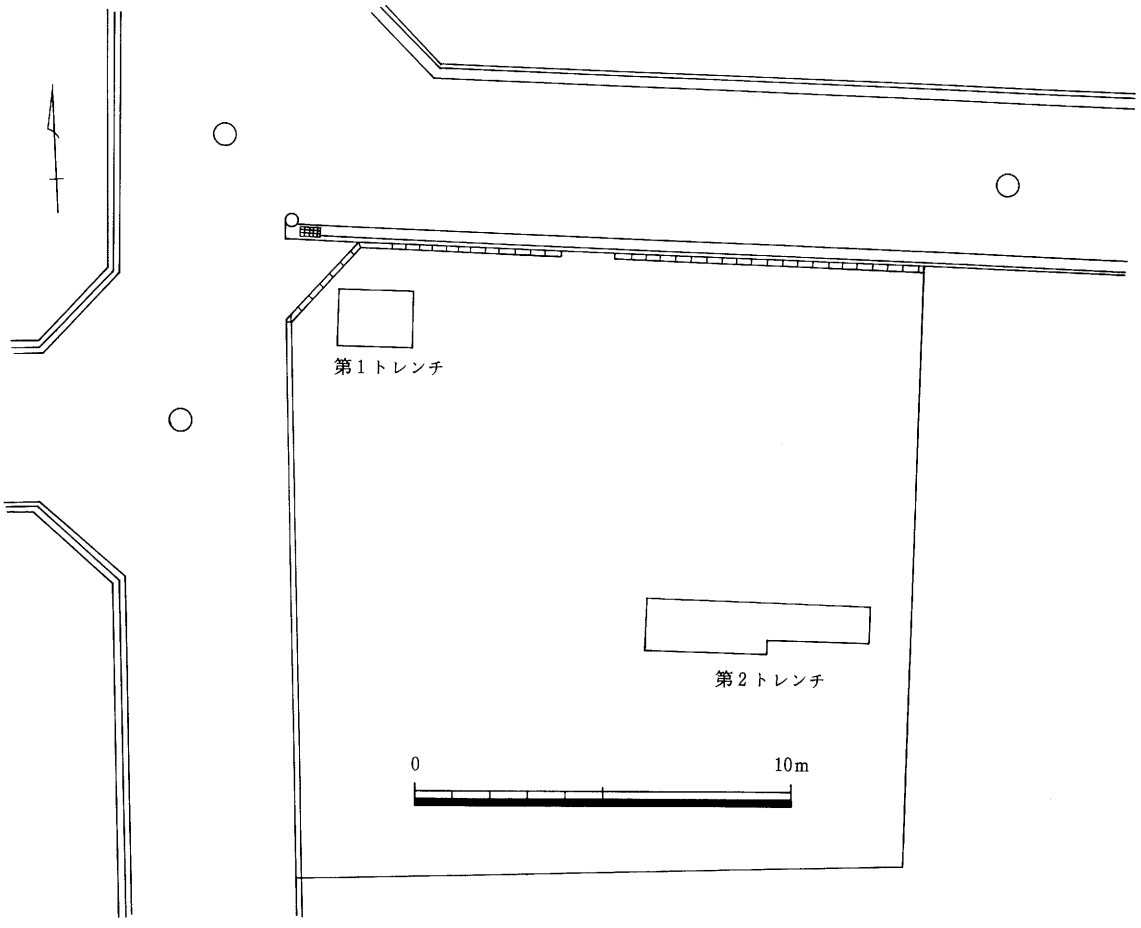
・調査面積　　9.0㎡／270.60㎡

・調査担当者　　安村　俊史

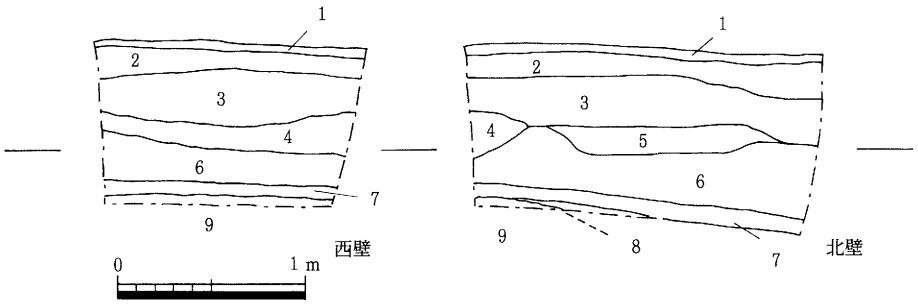
調査地は国指定史跡の田辺廃寺北西部に位置し、確実に田辺廃寺の寺域に含まれる地である。調査は、調査対象地の北西隅の浄化槽予定地に1.5m×2mの調査区を設定し、これを第1トレンチとして実施し、その後、建物予定地南東部に長さ4m、幅1mの第2トレンチを設定して実施した。この第2トレンチでは、遺構が検出されたため、調査範囲を拡張した。

第1トレンチは、深さ90cm前後まで掘り下げて調査を行った。地表下40cm前後までは最近の盛土であり、それ以下の褐色砂質土から暗灰褐色砂質土には、少量の土師器や瓦が含まれている。暗灰褐色砂質土上面には、明黄褐色粘質土を埋土とする溝状遺構がみられるが、その時期や性格は明らかにできない。その西側にも、落ち込み状の土層がみられ、これは明黄褐色土を埋土とする。

地山は西端で黄褐色粘土がみられ、それより東では黄褐色粘質土の地山となる。地山は西から東




図－27　調査区位置図




1．表土　　4．明黄褐色土　　7．褐色粘質土
2．黄褐色土（盛土）　　5．明黄褐色粘質土　　8．黄褐色粘質土〔地山〕
3．褐色砂質土　　6．暗灰褐色砂質土　　9．黄褐色粘土〔地山〕

図－28　第１トレンチ土層図

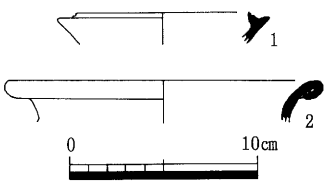
へと傾斜しており、20cm前後の比高差がみられる。地山直上には厚さ10cm弱で褐色粘質土が堆積しており、この層からは瓦質土器が出土している。

第２トレンチは、東西に長く設定し、その後、長さ約２ｍ、幅は部分的に約40cm拡張して調査範囲を広げた。黄褐色粘土の地山は、地表下10～20cmで確認され、調査区南西部で溝状の遺構が検出された。トレンチの拡張は、この遺構発見に伴うものである。溝状の遺構は暗褐色粘質土を埋土とし、須恵器・土師器の小片を多数含んでいる。出土した土器は６世紀後半から７世紀前半頃の時期を示している。遺構は緩やかな弧を描きながら南西へのびている。幅は60cm前後、深さは約15cmである。

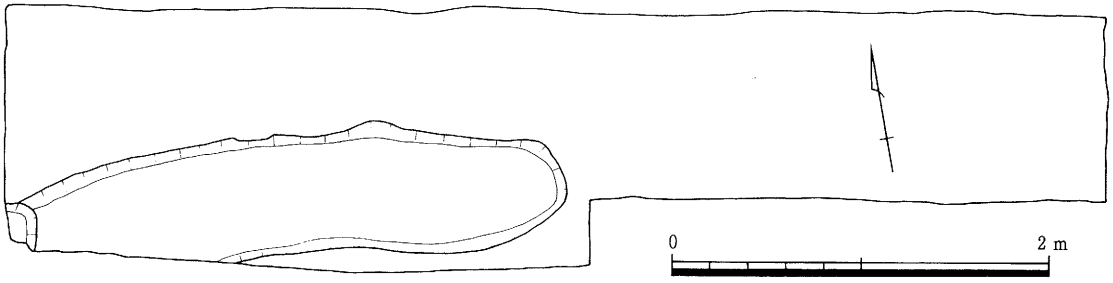
調査区南西隅では、この遺構を切るピット状の遺構を検出した。規模や平面形は確認できていないが、深さは約20cmである。埋土は、上層が黄褐色粘質土、下層が褐色粘質土である。ピットからは須恵器・土師器の小片が出土しているが、時期を明確にできる遺物はみられない。おそらく、溝とあまり時期差のないものと考えられる。

出土遺物は、第２トレンチの溝状遺構から出土した須恵器２点のみを図化した。杯身(1)は口径9.0cm。立ち上がりは短く内傾し、受け部は上方へ短くのびる。壺(2)は口径16.4cm。口縁部はなだらかに外湾し、口縁端部は外方に折り曲げられている。ともに回転ナデ調整が施される。

これらの遺構・遺物は、いずれも田辺廃寺造営以前のものであり、今後、注目されるものとなろう。

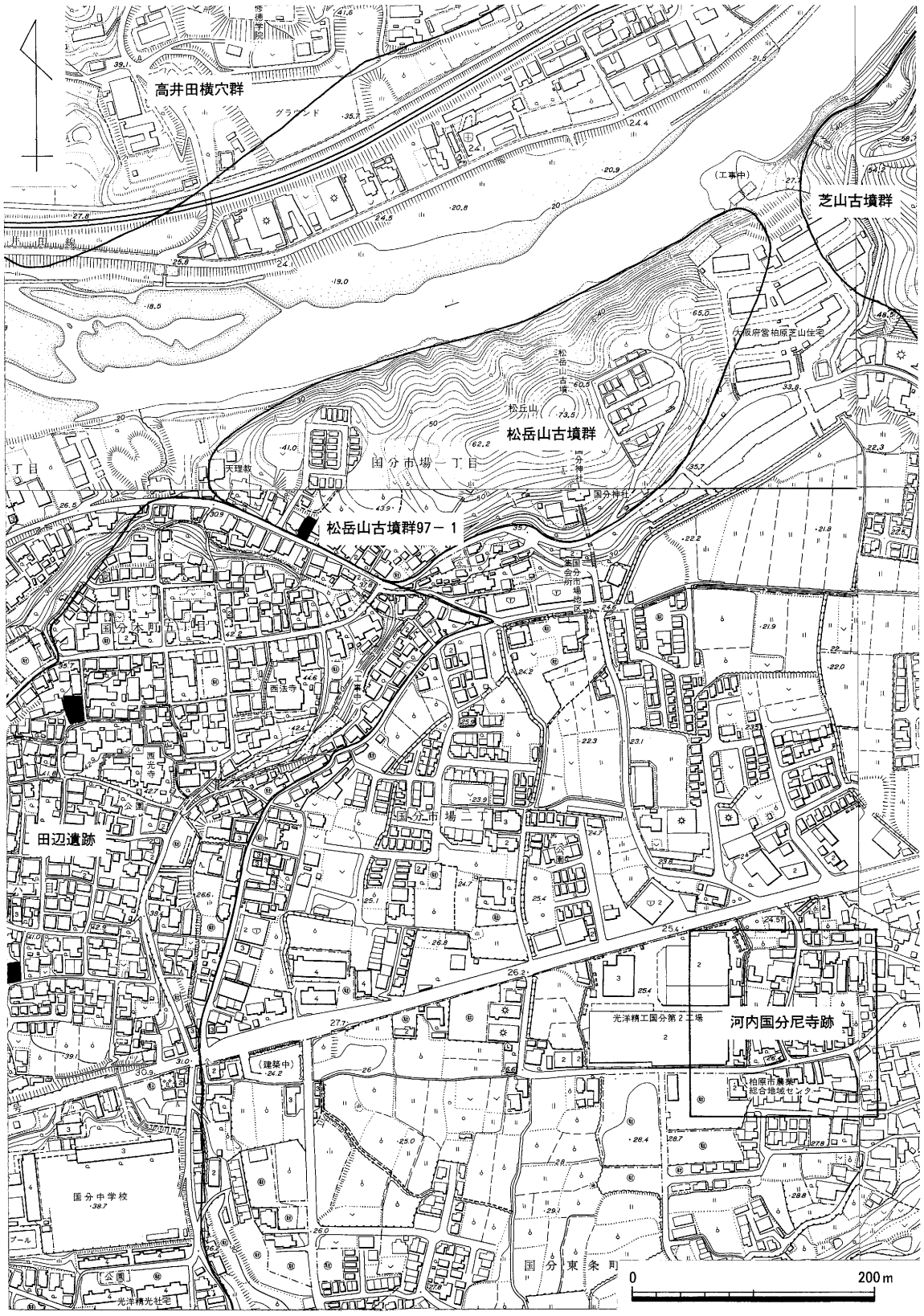



図－29　出土遺物




図－30　第２トレンチ平面図

# 第10章　松岳山古墳群




図－31　松岳山古墳群調査対象地位置図

## 97－１次調査

・調査対象地　　柏原市国分市場１丁目1630の一部
・調査期間　　1997年７月30日
・調査面積　　2.3㎡／154.87㎡
・調査担当者　　安村　俊史

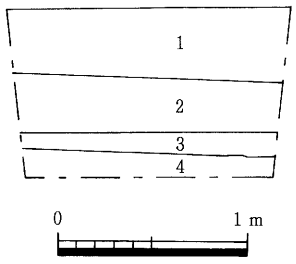
調査地は、松岳山古墳の位置する丘陵上に立地し、調査対象地の北側はかなりの比高差をもって高くなっている。調査は浄化槽予定地に1.5ｍ四方の調査区を設定して実施した。

地表下65㎝までは二層からなる盛土で、非常に堅く締まっている。その下層には近世から近代にかけての遺物を含んでいる灰色砂質土が10㎝前後の厚さでみられる。その下層にはこぶし大の礫を多数含んでいる明灰色砂質土がみられ、かなりの湧水が認められる。近世の陶磁器・瓦などを含んでおり、地表下90㎝まで掘り下げて、調査を終了した。

出土した遺物は瓦や陶磁器などであり、いずれも近世以降のものである。

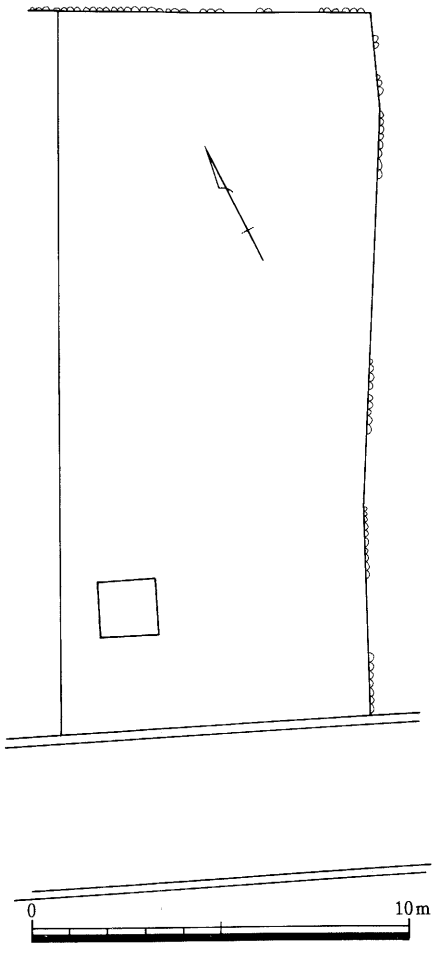
１は瀬戸・美濃焼の皿。口径12.2㎝。浅い椀形を呈し、口縁端部は外方に折り曲げられている。外面底部は無釉。石硯(2)は海部の１／２を欠する。よく使いこまれたかのように、陸部は溝状にすり減っている。転用品として砥石に使用された可能性もみられる。３・４は玉縁付の丸瓦。３の凹面には布目痕、４にはヘラ状工具によるナデ調整。凸面はともに板状工具によるナデが施される。

調査地は、近世に大きく改変されているようである。

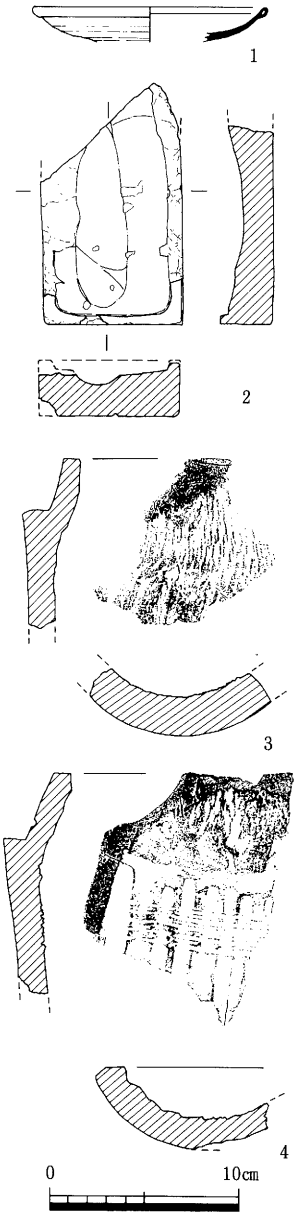



1．褐色砂礫土（盛土）
2．暗黄褐色粘質土（盛土）
3．灰色砂質土
4．明灰色砂質土（礫混）

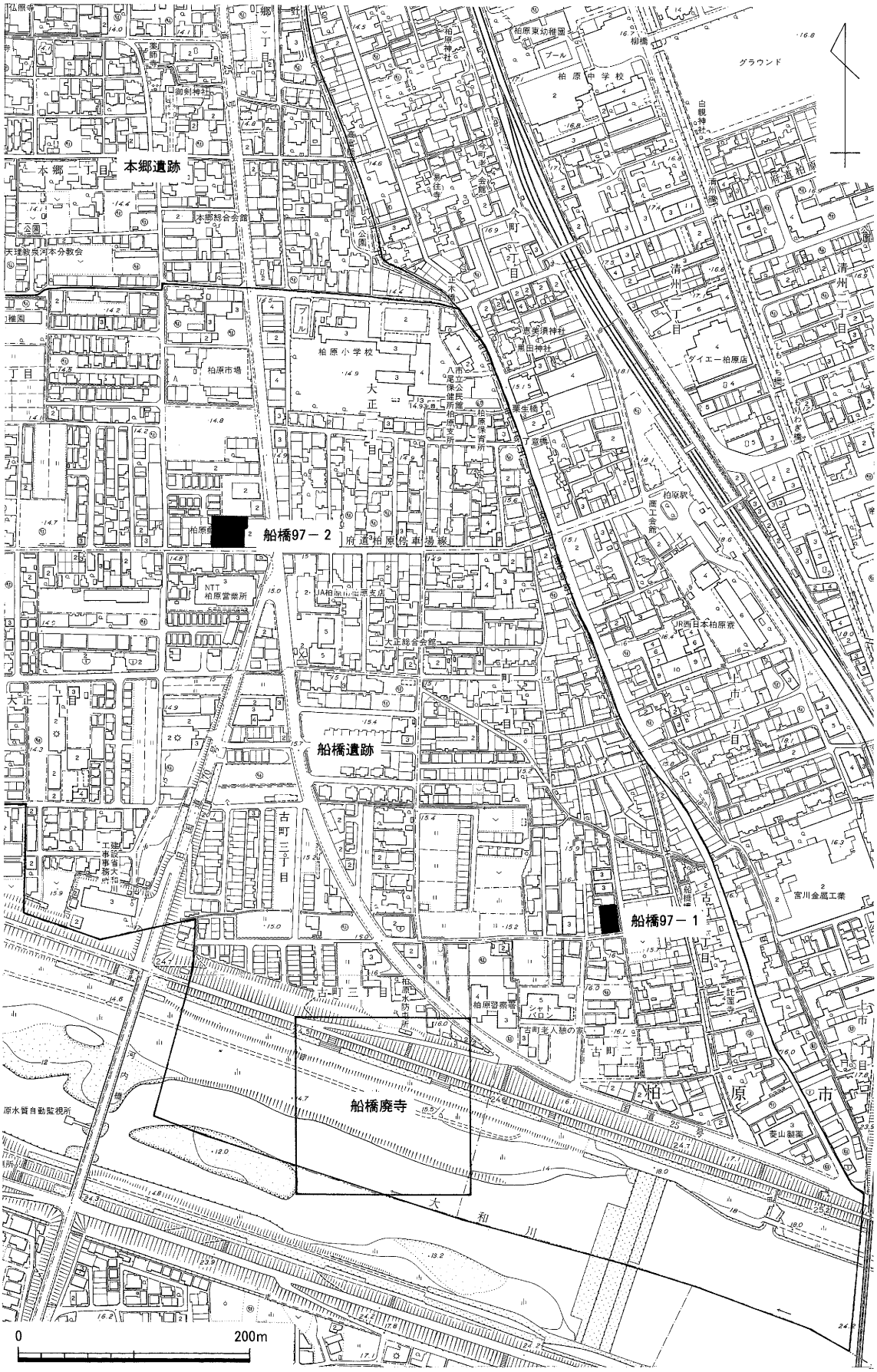
図－33　土層図




図－32　調査区位置図



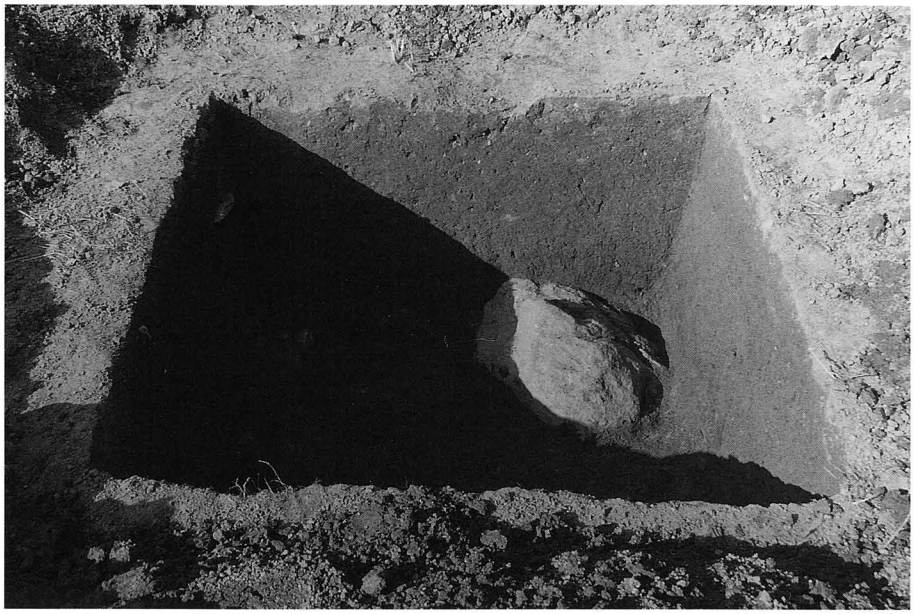

図－34　出土遺物



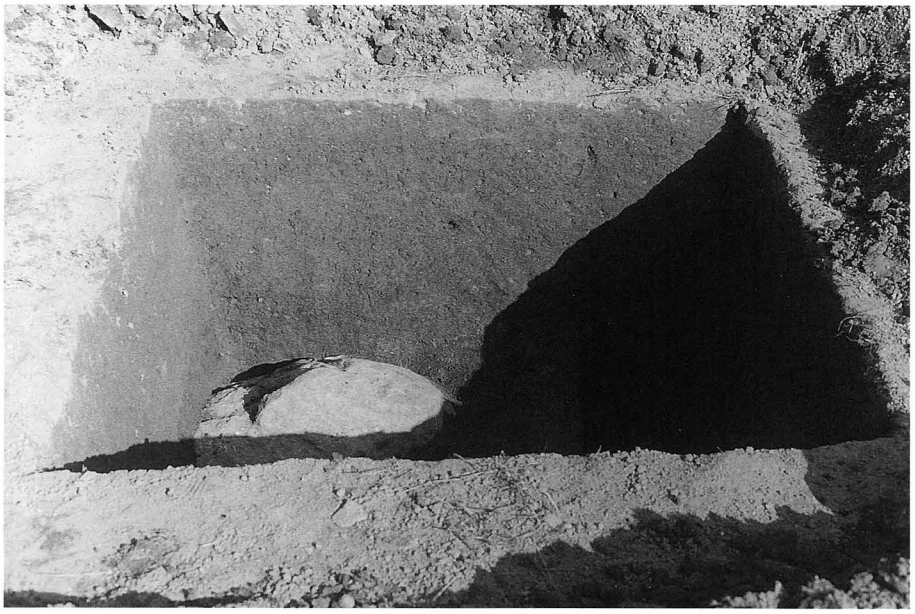

図－35　船橋遺跡調査対象地位置図

# 図　　版

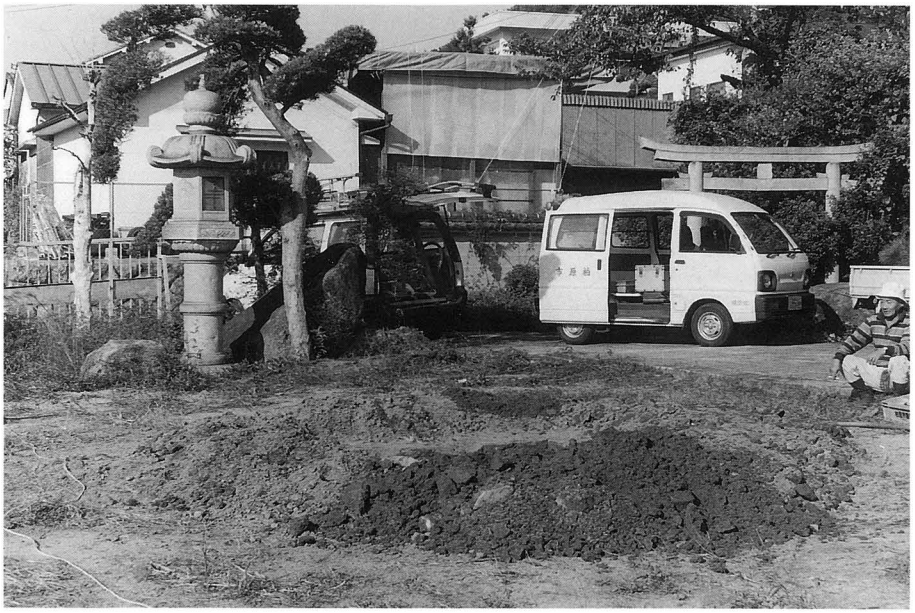
# 図版1　山ノ井遺跡97－1次調査



南から

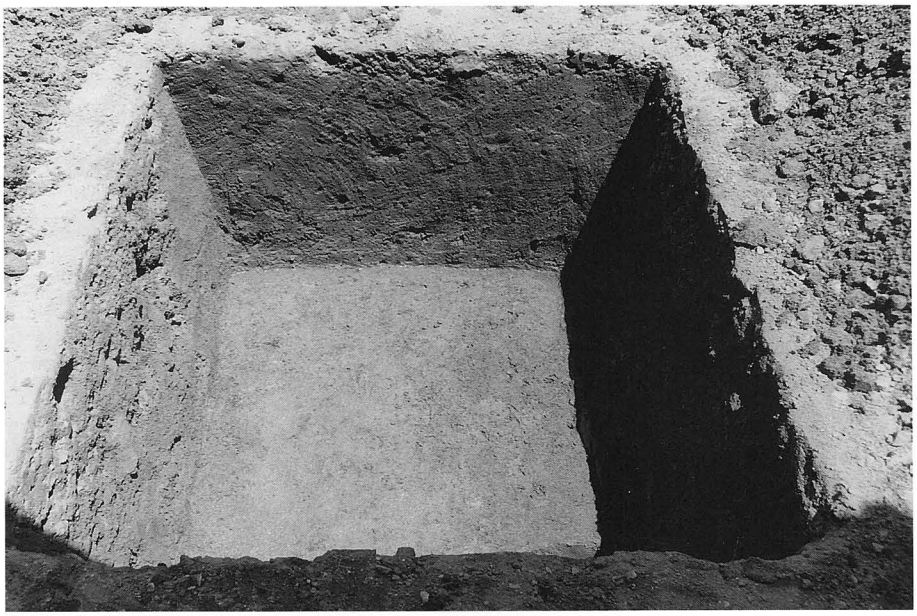


西から



全景（南西から）

図版2　平野遺跡97－2次調査

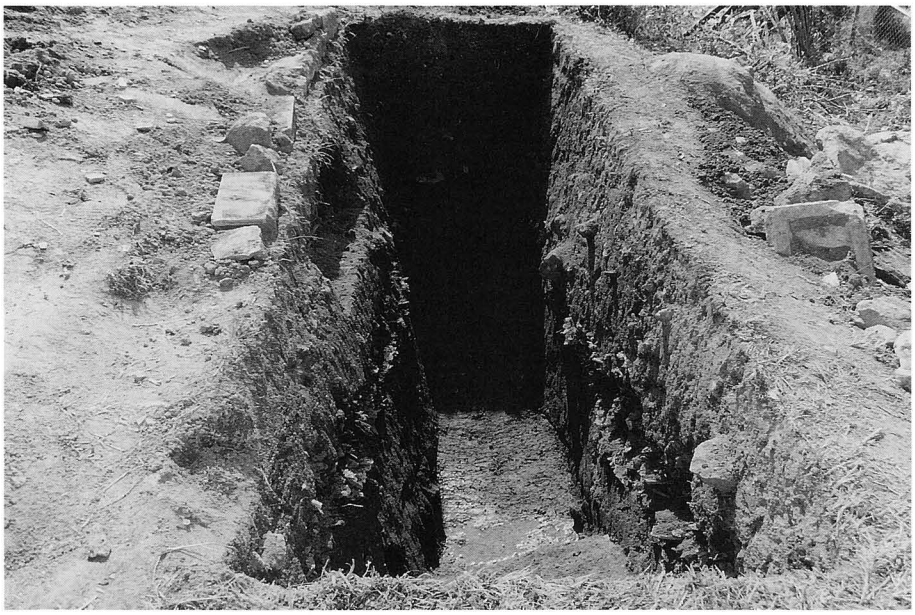


南から

北から

東から

# 図版3　大県南廃寺97－2次調査

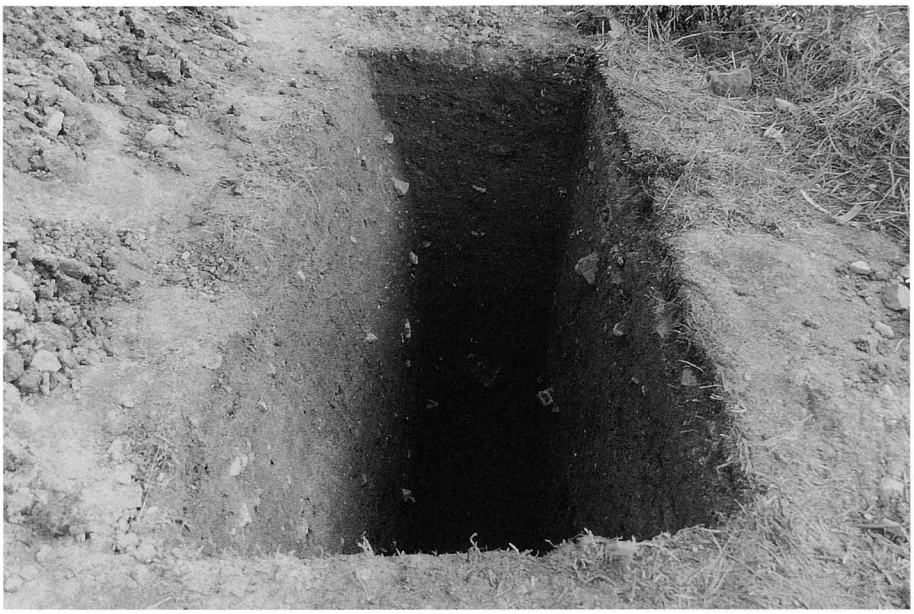


第1トレンチ
（東から）

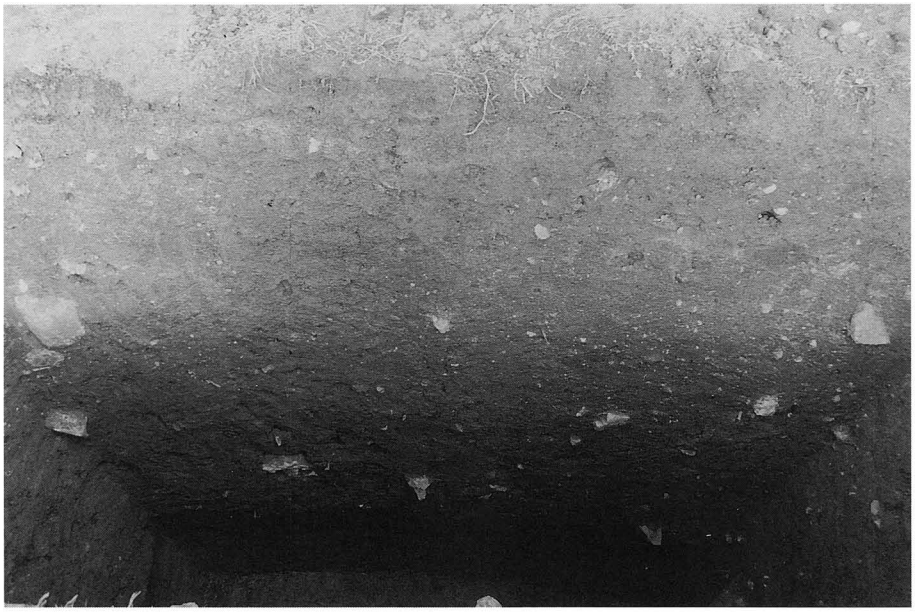
第1トレンチ
（北から）

第1トレンチ全景
（北から）

# 図版4　大県南廃寺97－2次調査



第2トレンチ
（北から）



第2トレンチ
（西から）

第2トレンチ全景
（南から）

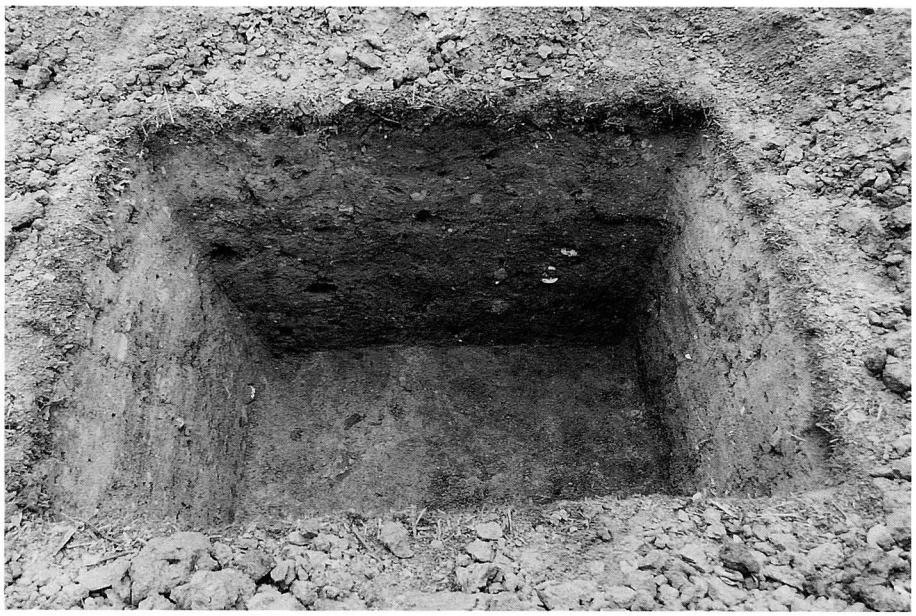
図版5　平尾山古墳群97－2次調査

北から

北から

全景（南から）

図版6　高井田横穴群97－1次調査



南から

北から

南から

# 図版7　玉手山遺跡97－4次調査

南から

北から

西から

# 図版8　原山遺跡97－2次調査

第1トレンチ
（南から）

第1トレンチ
（西から）

第1トレンチ
（東から）

第2トレンチ
（東から）

第2トレンチ
（西から）

第2トレンチ
（南から）

# 図版10　田辺遺跡97－7次調査

西から

北から

全景（西から）

土坑2

土坑3

土坑4

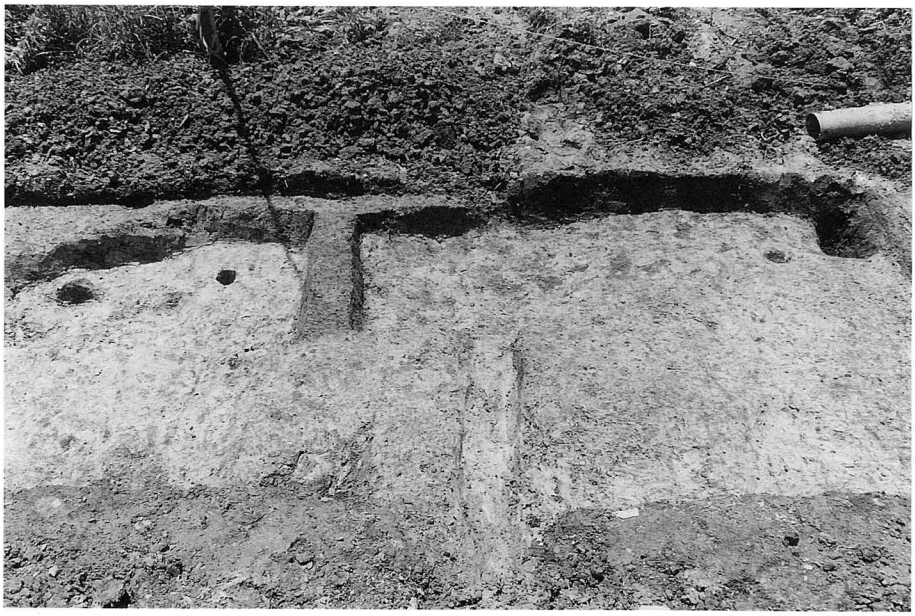
第1トレンチ
（東から）

第1トレンチ
（南から）

北西から（後方の
森が伽藍中心部）

第2トレンチ遺構
検出状況（西から）

第2トレンチ西半
（東から）



第2トレンチ西半
（北から）

図版14　松岳山古墳群97－1次調査

南から

北から

全景（南から）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | かしわらしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう |
| 書　　名 | 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報1997年度 |
| 副書名 | |
| 巻　　次 | |
| シリーズ名 | 柏原市文化財概報 |
| シリーズ番号 | 1997－Ⅰ |
| 編著者名 | 安村俊史 |
| 編集機関 | 柏原市教育委員会 |
| 所在地 | 〒582-8555 大阪府柏原市安堂町１番43号　TEL 0729－72－1501 |
| 発行年月日 | 1998年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 山ノ井 | 大阪府柏原市<br>山ノ井町 | 27221 | ＹＩ97－１ | 34度<br>35分<br>45秒 | 135度<br>38分<br>11秒 | 19971013 | 2.3 | 個人住宅建設 |
| 平野 | 平野２丁目 | 27221 | ＨＮ97－２ | 34度<br>35分<br>32秒 | 135度<br>38分<br>05秒 | 19970626 | 2.3 | 個人住宅建設 |
| 大県南廃寺 | 大県４丁目 | 27221 | OGMT97－2 | 34度<br>35分<br>02秒 | 135度<br>38分<br>12秒 | 19970317～<br>19970325 | 11.7 | 個人住宅宅地造成 |
| 平尾山古墳群 | 太平寺 | 27221 | ＨＯＫ97－２ | 34度<br>34分<br>58秒 | 135度<br>38分<br>46秒 | 19970501 | 3.0 | 個人住宅建設 |
| 高井田横穴群 | 高井田 | 27221 | ＴＤＫ97－１ | 34度<br>34分<br>09秒 | 135度<br>38分<br>21秒 | 19970916 | 3.0 | 個人住宅建設 |
| 玉手山 | 玉手町 | 27221 | ＴＹ97－４ | 34度<br>33分<br>47秒 | 135度<br>37分<br>56秒 | 19970825 | 2.3 | 個人住宅建設 |
| 原山 | 旭ケ丘３丁目 | 27221 | ＨＹ97－２ | 34度<br>33分<br>19秒 | 135度<br>38分<br>20秒 | 19970826 | 11.3 | 個人住宅建設 |
| 田辺 | 国分本町７丁目 | 27221 | ＴＢ97－７ | 34度<br>33分<br>33秒 | 135度<br>38分<br>46秒 | 19970811 | 2.3 | 個人住宅建設 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 田辺廃寺（たなべはいじ） | 田辺（たなべ）1丁目 | 27221 | TBT97－1 | 34度<br>33分<br>27秒 | 135度<br>38分<br>41秒 | 19970716～<br>19970718 | 9.0 | 個人住宅建設 |
| 松岳山古墳群（まつおかやまこふんぐん） | 国分市場（こくぶいちば）1丁目 | 27221 | MOK97－1 | 34度<br>33分<br>57秒 | 135度<br>38分<br>46秒 | 19970730 | 2.3 | 個人住宅建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 山ノ井 | 集落 | 中世～近世 | なし | 土師器、陶磁器、瓦 | |
| 平野 | 集落 | 飛鳥～奈良 | なし | 須恵器、土師器 | |
| 大県南廃寺 | 寺院跡 | 飛鳥～奈良 | なし | 須恵器、土師器、瓦 | |
| 平尾山古墳群 | 古墳群 | 弥生～古墳 | なし | 石器、須恵器、土師器 | |
| 高井田横穴群 | 横穴群 | 古墳～奈良 | なし | 須恵器、土師器 | |
| 玉手山 | 集落 | 飛鳥 | なし | 須恵器 | |
| 原山 | 集落 | 古墳～飛鳥 | ピット | 須恵器、土師器 | |
| 田辺 | 集落 | 近世 | 土坑、ピット | 陶磁器、瓦 | |
| 田辺廃寺 | 寺院跡 | 飛鳥～中世 | ピット、溝 | 須恵器、土師器、瓦 | |
| 松岳山古墳群 | 古墳群 | 近世 | なし | 陶磁器、瓦 | |

# 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1997年度

編集・発行　柏原市教育委員会
〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番43号
電話（0729）72－1501　内線5133
発行年月日　平成10年３月31日
印　　刷　東洋紙業高速印刷㈱